

赤れんが周辺等まちづくり構想

平成28年3月

舞鶴市

目 次

－赤れんが周辺等まちづくり構想－

はじめに	1
I. 事業概要	
1. 赤れんが周辺等まちづくり事業の目的と位置づけ	2
1-1. 事業の背景	2
1-2. 事業の目的	2
1-3. 計画対象エリア	3
1-4. 上位計画等	4
II. 現状・課題	
2. 計画対象エリアの概況	15
2-1. 計画対象エリアの現状	15
2-2. 舞鶴基地の概況	27
2-3. 計画対象エリアのニーズ等把握	30
3. 計画対象エリアの課題等整理	46
III. 構想策定にあたって	
4. 構想策定の経過	48
4-1. 構想策定の進め方	48
4-2. 策定懇話会における主な意見	49
4-3. 整備の方向性・必要な機能	58
4-4. 策定懇話会 提言	59
IV. 基本構想	
5. 基本構想	67
5-1. まちづくり構想の基本的な考え方	67
5-2. 整備の方向性	69
5-3. 「赤れんがパーク周辺エリア」の施設配置の方向性	72
6. 今後の事業の進め方	77

はじめに

本市では、「新たな舞鶴市総合計画(2011～2018)」に基づき、「まちの安定的成長戦略」「みんなで支え合う地域づくり戦略」「次代を担う人材の育成戦略」による「住んでよし、働いてよし、訪れてよしの選ばれるまちづくり」を推進してきたところであり、平成26年度からは、政策目標に「交流人口300万人・経済人口10万人都市・舞鶴」を掲げ、まちづくりのさらなる推進に向けた様々な施策を展開しています。

これまで、本市のブランドイメージである「赤れんが」「海・港」を最大限に活かした観光ブランド戦略の推進をはじめ、「海の京都観光圏」京都府北部5市2町による広域観光の展開などにより、本市における交流人口は大きく増加してきたところであり、京都舞鶴港の機能強化が進むとともに、平成27年には京阪神・北陸圏・中部圏を結ぶ高速道路ネットワークが完成したことにより、今後、海路・陸路を通じたさらなる交流人口のさらなる増加が見込まれています。

市においては、この好機を最大限に活かすため、観光戦略拠点である「赤れんがパーク」を中心に、隣接する海上自衛隊施設との連携・調和を図りながら、「赤れんがパーク」周辺一帯を日本有数の一大交流拠点とすることを目的として、平成27年度において、防衛省の補助事業「まちづくり構想策定支援事業」を活用し、今後の赤れんがパーク周辺等の整備に関する基本方針などを定める「赤れんが周辺等まちづくり構想」を策定することとしたものです。

構想の策定にあたっては、幅広い識見や、豊富な経験、ネットワーク等を有する有識者、商工団体、観光団体、まちづくり団体等で構成する「赤れんが周辺等まちづくり構想策定懇話会」を設置し、懇話会において、赤れんがパーク周辺等の整備に対する基本的な考え方、必要な機能、施設等の整備の方向性等をとりまとめ、提案いただきました。

本構想は、懇話会の提案等を踏まえ、今後の交流人口の拡大はもとより、海上自衛隊施設との連携・調和、地域防災機能の強化等を図るための赤れんがパーク周辺等のまちづくりの方向性をとりまとめたものです。

今後、構想に基づく具体的な整備計画を策定し、「赤れんがパーク」周辺一帯の活用による「交流人口300万人・経済人口10万人都市・舞鶴」の実現に向けたまちづくりを推進してまいりますので、引き続き、市民の皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。

平成28年3月

舞鶴市長 多々見 良三

I. 事業概要

1. 赤れんが周辺等まちづくり事業の目的と位置づけ

1-1. 事業の背景

本市は、明治34年の海軍鎮守府開庁に伴い、海軍工廠が開設し、物資輸送に必要な道路・鉄道等の運輸交通網や、艦艇等への補給用水を確保するための水道施設といったインフラが整備されるとともに、市街地が形成されるなど、軍港都市として発展を遂げた歴史を有しています。

戦後、本市を含む旧軍港四市（横須賀・呉・佐世保・舞鶴）は、海軍省、海軍工廠等の解体により基盤を失い、大きく疲弊しましたが、旧軍港市を平和産業港湾都市に転換・再建すべく議員立法として成立・可決された「旧軍港市転換法(昭和25年公布施行)」により、旧軍用財産等の転活用を図る中で、平和産業港湾都市にふさわしいまちづくりを推し進めてきました。

また、現在、本市には、海上自衛隊舞鶴地方総監部、第3護衛隊群、第23航空隊、舞鶴警備隊及び舞鶴教育隊等の部隊が所在しておりますが、今日まで一貫して、我が国を支える国防政策に協力を惜しまず、海上自衛隊、防衛施設との共存の中で、まちづくりに取り組んできました。

これまで、本市では、ブランドイメージである「赤れんが」「海・港」を活かした観光ブランド戦略を、赤れんが倉庫群等の近代化遺産や、海軍ゆかりの歴史等を活用する中で、積極的に推進してきたところであり、観光戦略拠点である「舞鶴赤れんがパーク」への来場者は平成24年のグランドオープン以降大きく増加し、「舞鶴赤れんがパーク」に隣接する海上自衛隊施設への見学者も増加傾向にあります。

今後、「赤れんが」「海・港」を活かした観光ブランド戦略の推進等により、本市が掲げる「交流人口300万人・経済人口10万人都市・舞鶴」を実現するためには、これまで以上に、近代化の歴史・文化、地域資源等を最大限に活用するとともに、防衛施設と調和のとれたまちづくりが必要となっているものです。

1-2. 事業の目的

赤れんが倉庫群をはじめとする本市の近代化の歴史・文化、地域資源等を最大限に活用するとともに、防衛施設と調和のとれたまちづくりを推進するため、防衛省「まちづくり構想策定支援事業」を活用し、北吸地区「赤れんがパーク周辺エリア」及び「しおじ通り周辺エリア」一帯を、ブランドイメージである「赤れんが」「海・港」を生かした交流エリアとするための基本構想を策定するものです。

1-3. 計画対象エリア

北吸地区「赤れんがパーク周辺エリア」及び「しおじ通り周辺エリア」一帯を、本基本構想の計画対象エリアとします。

また、観光戦略拠点である「赤れんがパーク周辺エリア」を、早期に導入施設・機能を検討し、整備・開発を図る重点検討エリアと位置付けます。

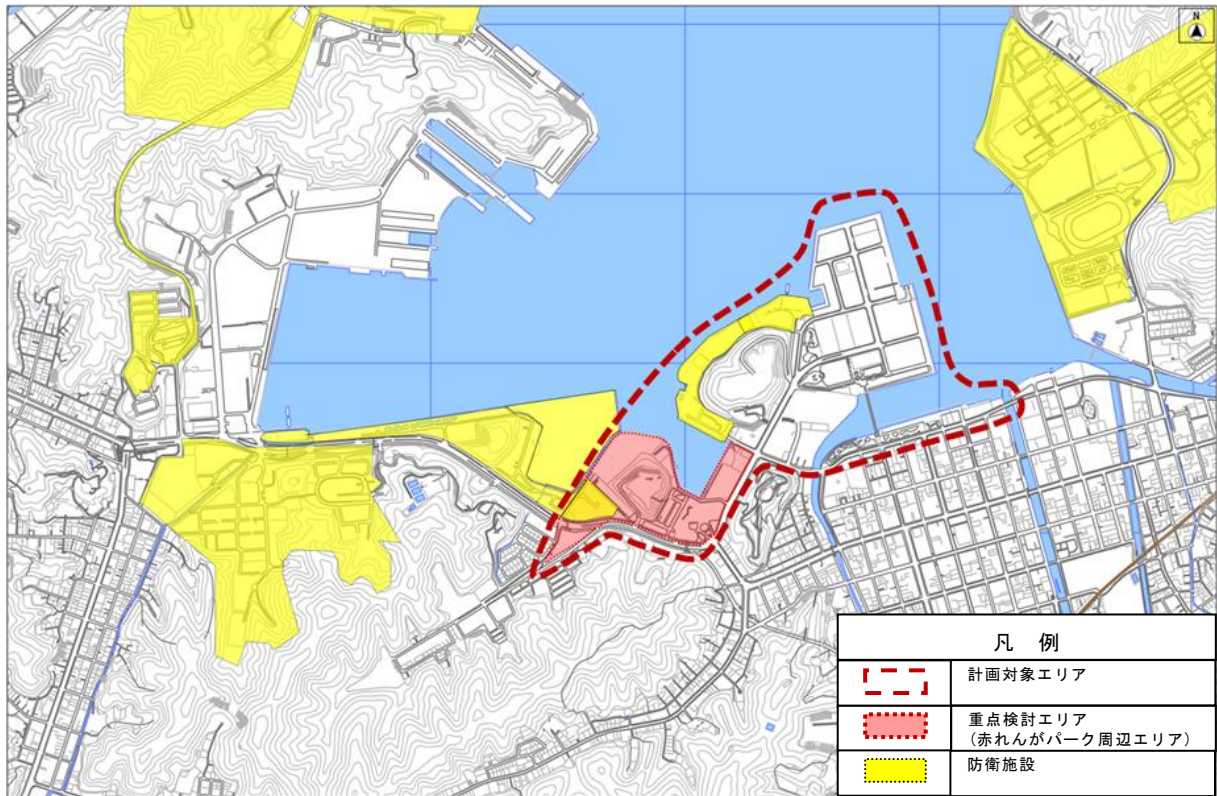


図1-1 「赤れんが周辺等まちづくり基本構想」計画対象エリア

1-4. 上位計画等（計画対象エリア周辺の位置付け等）

計画対象エリア周辺は、「新たな舞鶴市総合計画（計画期間：2011～2018年）」をはじめ、「舞鶴市まち・ひと・しごと創生総合戦略（計画期間：2015～2019）」等の計画において、以下のように位置付けています。

（1）新たな舞鶴市総合計画

◇新たな舞鶴市総合計画 基本構想（計画期間：2011～2018年）

第2編 まちづくり戦略

1 まちづくりの方針

- （1）都市像：「東アジアに躍動する国際港湾・交流都市 舞鶴」
- （2）まちづくりの基本目標：「子どもからお年寄りまで安心して暮らせるまち・舞鶴」
- （3）まちづくりを進める上での枠組み及び配慮すべき事項

③関係機関との連携

海上自衛隊や海上保安庁など国・府等の機関が多数所在することにより、危機事象発生時等における安心・安全の確保に多大な寄与を受けているほか、地域経済に大きく貢献しています。さらに、これらの機関の存在は、本市の個性や特徴を形成する大きな要素でもあり、観光や地域文化の振興につながる地域資源ともいえます。

これらの機関との共存のもと、さらに連携・協力を強化し、今後のまちづくりを推進します。

⑤計画的な土地利用

ウ 臨海部

臨海部に所在する低未利用地については、その有効な活用を図るほか、市民が憩える水辺空間の整備に向けて取り組みます。

また、集約化することとなっている海上自衛隊用地については、その有効な利活用に向けて国への働きかけや検討を進めます。

◇新たな舞鶴市総合計画 後期実行計画（計画期間：2015～2018年）

第1編 まちづくり戦略 第1章 まちの安定的成長戦略

第2節 魅力あるまちへのイノベーション

3 歴史・文化都市創造への取組

（1）歴史資源の活用によるまちづくり

③近代化遺産の活用

- ・赤れんが倉庫の保存・活用方策を検討し、赤れんがパークの充実を図ります。
- ・赤れんがパークのブランド力の向上を図り、交流人口と観光消費の拡大を図ります。
- ・未活用の旧海軍遺産等について調査研究し、保存・活用方策を検討します。

数値項目	赤れんがパークの来場者数
基準数値(H26)	30万人
後期目標数値(H30)	50万人

(2) 美しい舞鶴らしい景観づくり

①北吸・浜地区における水辺空間の整備に向けた検討

- ・本市を代表する景観である港と赤れんがに親しめるゾーンとなるよう北吸・浜地区における水辺空間の全体的な整備に向けて検討を行います。

4 観光都市としての魅力づくりと発信

(1) まいづる観光ブランド戦略の推進

①シンボルイメージを軸とした戦略的な集客と関連イメージへの誘導

- ・「赤れんが」と「海・港」をシンボルイメージと位置付け、また、「海の京都観光圏」の観光戦略拠点として積極的に情報発信を行うことで、効果的に集客し、関連イメージへと誘導を図ることで、交流人口の拡大につなげます。
- ・戦略的な集客に当たっては、観光消費額の増大を図るため、滞在時間及び宿泊客の増加に努めます。

数値項目	交流人口
基準数値(H25)	200万人
後期目標数値(H30)	300万人

③海軍ゆかりの観光誘客の推進

- ・「海軍ゆかり」のまちとして、固有の地域資源を活かした、オンリーワンの誘客事業を実施することにより、観光客の満足度を高め、リピーターの増加を図ります。

数値項目	海軍ゆかりをテーマにした観光事業数
基準数値(H22)	5事業
後期目標数値(H30)	10事業

(2) 舞鶴市まち・ひと・しごと創生総合戦略（計画期間：平成27年度～平成31年度）

政策目標に『交流人口300万人・経済人口10万人』都市・舞鶴」を掲げ、政策目標の実現に向けた政策4分野に基づく施策の推進により、定住人口の減少抑制、交流人口の拡大を図り、定住人口10万人に匹敵するまちの活力の実現を目指すものです。



経済人口10万人を目指す理由

定住人口が減少し、交流人口規模が現状のままだと
「地域の経済規模が縮小」 ⇒ 消費・雇用の縮小、地域産業の停滞



I しごとをつくり、安心して働けるようにする

2 「赤れんが」「海・港」を核とした観光産業の振興によるビジネス創出と観光消費の拡大

「まいづる観光ブランド戦略」に基づく「赤れんが」と「海・港」を核とし、地域を挙げたおもてなしの心の醸成により、来訪者の満足度を高め、交流人口の拡大、観光消費の増大により、総合産業として広い裾野を持つ観光産業の振興を図り、次世代のリーディング産業へと発展させます。

(1) 旧海軍にゆかりのある地域資源の観光ブランド化の促進

海上自衛隊の所有する海軍記念館や旧東郷邸、ジャパンマリンユナイテッド舞鶴事業所の舞鶴館（旧舞鶴海軍工廠本館）などは、旧海軍時代からの歴史の中で、地域が大切に守ってきた貴重な地域資源であり、それらを個性的な観光コンテンツとしてブランド化を促進します。

重要業績評価指標（KPI）	H26基準数値	H31目標数値
■海軍ゆかりの港めぐり遊覧船乗客数	11,363人	20,000人
■自衛隊施設見学者数	73,000人	150,000人

3 歴史・文化都市創造への取組

先人が築き上げた宝である舞鶴固有の豊富な歴史文化資源を保存・活用し、まちの個性の形成に取り組みます。

また、人々にゆとりや安らぎ、生きる励みをもたらす文化は、心豊かに暮らせるまちにおいては必要不可欠であり、市民による多様な文化活動の自主性を尊重しながら、それらの活動が活発に行えるよう支援します。

(1) 赤れんがと海・港が織りなす美しく舞鶴らしい景観づくり

赤れんがパーク周辺から潮路通り周辺までの「赤れんが」「海・港」エリア一帯の開発に向けた取組を推進します。

海軍ゆかりの個性ある街並みや建造物は舞鶴を特徴づける貴重な財産であり、その調査研究を進め、保全・活用方策を検討します。

本市の観光戦略拠点として位置付けている赤れんがパークのブランド力の向上を図り、交流人口と観光消費の拡大を図ります。

重要業績評価指標（KPI）	H26基準数値	H31目標数値
■赤れんがパーク入込客数	360,000人	550,000人

(3) 都市計画マスタープラン（計画期間：平成24年度～平成33年度）

V まちづくりの全体方針

1. まちづくりの基本的方針

○港や東西の個性ある市街地などの固有の資源を活用し、魅力的で活力あるまちづくりを進めます。

東アジア地域と関西経済圏を結ぶゲートウェイとなる京都舞鶴港の利便性、有意性の向上と有効活用により、さらなる物流・人流の拡大を図るとともに、本市市街地の魅力ある水辺空間や近代化遺産・歴史的資源を活かしたまちづくりを推進します。

2. 土地利用の方針

【市街化区域】

(1) まちなか賑わいゾーン

●港や赤れんがを活かしたまちの魅力形成と賑わいの創出

東地区は、本市の個性である港や赤れんがに親しむことができるよう北吸・浜地区の水辺空間の全体的な整備に向けた検討を行うとともに、赤れんが倉庫の保存・活用による赤れんがパークの整備を図り、まちの魅力づくりを促進します。

(3) 臨海産業交流ゾーン

●港湾・産業機能の充実

舞鶴国際ふ頭や前島ふ頭を核とする京都舞鶴港の優位性を活かし、物流の活性化や国内外の貿易量の拡大を図るとともに、臨海部の低・未利用地の有効活用やふ頭機能の見直しによる港の賑わいの創出を促進します。

●親水空間の創出

本市特有の魅力ある水辺空間を活かしたまちづくりを推進し、市民や来訪者の交流拠点の形成を図ります。

3. 都市施設の整備方針

3-1 主な都市施設の整備方針

(1) 道路・交通体系の整備方針

④歩行者空間等

●歩行者に配慮した「地域の顔」となるうるおいのある道づくり

・東港地区の前島ふ頭と市街地を結ぶ歩道橋の整備促進等により、港湾部と中心市街地のネットワーク化を進めます。

(2) 公園緑地等の整備方針

①港湾

●舞鶴湾内における魅力的な水辺空間の創出

・(仮称)前島歩道橋を核とした舞鶴東港周辺整備の促進により、魅力あるウォーターフロントの創出を図ります。

(4) 港湾の整備方針

●京都舞鶴港の発展に向けた機能強化と効率的活用

- ・東港地区においては、前島ふ頭の内航フェリー岸壁の延伸と増深により、船舶大型化への対応を図るとともに、新たに国際フェリー岸壁の整備を促進し、内外貿の結節点となる日本海側唯一の国際ユニットロードハブの形成に関する取り組みを図ります。
- ・湾内に無秩序に係留されている放置艇をはじめ、プレジャーボートの係留対策に努め、海上交通の安全性の向上を目指します。

3-2 都市施設を整備する上で特に配慮すべき方針

(1) 都市環境の形成及び自然環境の保全に関する方針

①都市環境

●地域資源を活かした質の高い景観形成の促進

- ・東地区は赤れんが倉庫、西地区は城下町等、其々の特色ある歴史的文化資源を活かしたまちの景観形成の促進を目指し、市民・事業者及び行政が一体となった取り組みを促進します。

VI 地域別のまちづくり方針

3. 東地域のまちづくり方針

3-2 地域の整備目標

まちなかの利便性や赤れんが・港を活かした活力と賑わいの創出
ゆとりある快適で暮らしやすい居住環境づくり

中心市街地においては、都市機能が集積する利便性の高さを活かすとともに、低・未利用地の有効活用、魅力的な地域資源である赤れんが・港を活用したまちづくりの推進により、まちの顔としての活力と賑わいの創出を図ります。

3-3 地域の整備方針

(1) 土地利用

◎臨海産業交流ゾーン／内陸産業振興ゾーン

- 港湾背後地や幹線道路沿いなどの立地条件を活かした産業振興を目指し、周辺環境と調和のとれた土地利用を促進するとともに、新たな土地利用の方向性が明らかとなった場合には、土地利用の見直しを検討します。
- 市民や来訪者が、赤れんが倉庫群や港などの魅力ある景観により親しむことができるよう、親水性の高い空間の整備に向けて検討を行います。
- 集約化が予定されている自衛隊施設について、その跡地の有効活用に向けた国への働きかけや検討を進めます。
- 前島ふ頭において、内外貿の結節点となる国際ユニットロードハブの形成に関する取り組みを促進します。

東地区



(4) 文化振興基本指針（計画期間：平成25年度～平成34年度）

第3章 舞鶴市の文化振興の理念

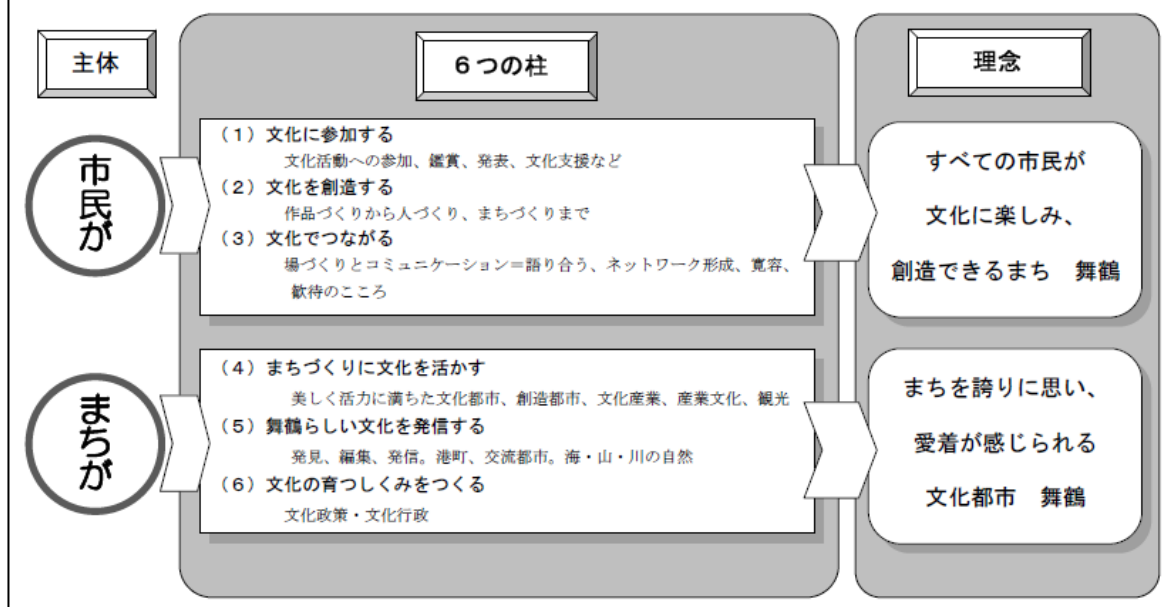
■舞鶴市の文化振興の理念

- ・すべての市民が文化を楽しみ、創造できるまち 舞鶴
- ・まちを誇りに思い、愛着が感じられる文化都市 舞鶴

■文化振興の6つの柱

- (1) 文化に参加する（文化活動への参加、鑑賞、発表、支援など）
- (2) 文化を創造する（作品づくり、人づくり、まちづくり）
- (3) 文化でつながる（交流、連携、情報発信など）
- (4) まちづくりに文化を活かす（美しく活気に満ちた都市の創造）
- (5) 舞鶴らしい文化を発信する（地域資源を継承し育むなど）
- (6) 文化の育つしくみをつくる（指針実現のための役割や取り組みなど）

■文化振興の理念と柱の関係



第4章 文化振興の基本方向と施策

1 文化振興の基本方向と施策

(4) まちづくりに文化を活かす（美しく活力に満ちた都市の創造）

①まちづくりに文化を活かす

まちの風景やまち並みは、歴史的に形成されてきた文化そのものです。美しい景観は住民の誇りで、アイデンティティの拠り所ともなります。歴史の蓄積は未来の市民のものでもあり、可能な限り残していくことが望まれます。美しいまち、歴史資産の豊かなまちは、住む人にも訪れる人にも魅力あるまちとなります。

施策の方向	主体	民	協	団	市	時
・舞鶴らしい風景を守り、育てよう（港町、城下町、赤れんが、歴史的まち並み、海と山と川の自然など）。		◎	◎	△	◎	短
・舞鶴の歴史的建造物の文化的活用を図ろう（ギャラリー、カフェ・レストラン、商業施設、博物館等）。		◎	◎	△	○	長
・舞鶴らしい景観づくりを応援しよう（補助金、顕彰制度など）。		○	○	△	◎	中
・舞鶴の歴史・文化を世界に発信しよう。		◎	◎	○	◎	中
・商店街などのまちを文化的に活用しよう。		◎	○	△	○	中

③文化を基軸とした都市づくりの促進

文化を基軸とした都市づくりとは、都市の美しさ、住み心地の良さを大切にするまちづくりであり、何より人を大切にしまちづくりです。文化の視点をもった都市づくりが大切です。

施策の方向	主体	民	協	団	市	時
・文化を都市ビジョンの基礎に置こう。		○	○	△	◎	短
・文化の視点を大切にしまち計画としよう。		○	○	△	◎	長
・都市デザインに配慮した建造物・施設としよう。		◎	○	△	◎	長
・「美しいまちづくり」を推進しよう。		◎	○	△	◎	長
・ユニバーサルデザインに基づいた、一人ひとりの人権を尊重したまちづくりを進めよう。	ま	◎	◎	△	◎	中
・住み続けたい魅力的なまちをつくろう。		◎	◎	○	◎	長

⑤観光を豊かにする

これからの観光は、観光資源の組み合わせによる「物語」が人を引きつけます。観光に活用できる市内のさまざまな資源を活かし、「物語」化することが大切です。

本市は貴重な歴史的資産を有しており、市民とともに地域資源を活かしたまちづくりを進め、それらを観光振興につなげることが重要です。

施策の方向	主体	民	協	団	市	時
・観光資源の質の向上とネットワーク化を進めよう。		◎	○	△	◎	短
・清掃活動などにより街中をきれいにするこことで、市民環境はもとより観光も豊かになるよう努めよう。		◎	◎	△	○	短
・地域の資源を活かして一過性の観光ではなく、持続可能な観光を進めよう。		○	◎	△	◎	中
・市民のホスピタリティを醸成し観光に活かそう。		◎	◎	△	○	中
・「赤れんが」など地域資源を活かしたまちづくりを進めよう。		◎	◎	△	◎	短
・まち並み、景観を大切にしよう。		◎	○	△	◎	長
・舞鶴を素材とした文化芸術作品の創作や観光イベントを開始し観光振興につなげよう。		○	○	△	◎	長
・舞鶴の食文化を活用した観光や、食のブランド化をさらに進めよう。		◎	○	△	○	中

(5) 公共施設再生基本計画（計画期間：平成26年度～平成57年度）

■基本計画の目標

1. 公共施設の質・サービス・利便性の向上

変化する市民ニーズや社会構造に対応する公共施設の再生を実現し、公共施設の質・サービス・利便性を向上させるとともに、舞鶴の歴史や風土に配慮し、市民が愛着の持てる施設づくりを推進する。

2. 公共施設再生のための財政的取組の推進

公共施設の再生を実効性のあるものにするため、様々な財政的取組を実施し、全市的な視点にたつて投資的経費と運営コストの縮減を図る。

【数値目標】総延床面積12%（3.8万㎡）削減

■重点検討エリア内施設の再生計画における方向性

施設名称	再生計画における方向性
舞鶴市政記念館	コミュニティセンターの中では、建物状況が良く、利用状況も比較的評価が高い施設ですが、できる限り少ないコストでの運営やサービスの向上、利用促進などを継続していくことが必要です。
赤れんが博物館	利用状況は高い評価です。 建物自体に歴史・文化的な価値があり、効率的・計画的な点検・補修によって存続させる方策を検討する必要があります。
老人福祉センター 文庫山学園	築30年を超えた、やや古い建物です。計画的な維持管理・補修を加える必要があるほか、文庫山学園については耐震性を確認する必要があります。 コストは低く抑えられていますが、直営での運営が行われており、更に効率化を図ることが必要です。 ⇒文庫山学園は耐震性が確認されていないことや、アクセス利便性が悪いことなど、施設の安全性や利用者の利便性をさらに高めることが望ましい状況であることを勘案し、施設の最適なあり方について検討します。
東体育館	総じて建物・防災・拠点性などの評価が高いものの、設備の不具合や老朽化にきめ細かく対応するとともに、提供するサービスを維持し、長期に亘って利用できるよう、計画的に維持管理を行う必要があります。 一方、総じて利用者数は平均に比べると若干少なく、充当されているコストも低い中で、サービスのあり方を再検討し、施設間での連携なども考慮しながら利用の促進を図る必要があります。
まいづる智恵蔵	建物自体に価値がある施設は、公共サービスの一環としてその保存方策を計画的に進めます。
赤れんが広報 赤れんがイベントホール	平成24年度に開設した施設であり、建物上の問題は全くありませんが、年度を通じて収集可能なコスト情報や利用者数・稼働率といった利用状況などが把握できていないため、数年間での運営実績を見ながら、効率の良い運営を行う必要があります。

(6) 公共施設再生実施計画（第1期：平成28～37年度）

■重点検討エリア内の第1期対象施設

<老人福祉センター文庫山学園>

旧市民病院建物を活用し、機能移転を行います。
建物は東公民館との複合化を行い、両施設で共用化できる機能については複数設置せず、効率的な利用を図ります。
また、東舞鶴地区の中心市街地に位置する良好なロケーションを生かして利用促進を図るとともに、避難所としての防災機能を備えます。

(7) 地域防災計画（平成27年3月18日修正）

■一般災害対策編（平成27年3月修正）

第4節 物資配送センター開設計画

大災害が発生し、多くの避難者が発生した場合には、避難所ごとに備蓄品、食料品、日用品等の物資を蓄え、これを管理することが困難であるので、食品・物資の集中管理体制をとり、避難所ごとの在庫管理負担を軽減するため、物資配送センターを開設する。

1 開設予定場所

舞鶴東体育館、舞鶴文化公園体育館及び赤れんが5号棟を物資配送センターの開設予定場所とする。なお、3箇所では不足すると考えられる場合は、必要に応じて他の場所を選定し、物資配送センターを開設する。

■震災対策編（平成22年3月修正）

第4節 物資配送センター開設計画

2 開設予定場所

舞鶴東体育館、舞鶴文化公園を物資配送センターの開設予定場所とする。
なお、2箇所では不足すると考えられる場合は、必要に応じて他の場所を選定し、物資配送センターを開設する。

Ⅱ. 現状・課題

2. 計画対象エリアの概況

2-1. 計画対象エリアの現状

(1) 計画対象エリアの概況

基本構想の計画対象エリアである「赤れんがパーク周辺エリア」及び「しおじ通り周辺エリア」一帯は、明治34年の海軍鎮守府開庁に伴い開発・整備されたエリアであり、現在も、明治・大正期に建設された赤れんが倉庫群をはじめ、多くの近代化遺産が現存し活用されるとともに、海上自衛隊施設、造船所施設が隣接しており、舞鶴市（東地区）の近代から今日までの都市形成の成り立ちを象徴するエリアとなっています。



本市では、北吸地区に集積する貴重な近代建築物「赤れんが倉庫」を活用し、平成5年に「赤れんが博物館」、平成6年に「市政記念館」、平成19年に「まいづる智恵蔵」を整備、その後、「赤れんが」「海・港」を活かした本市の観光ブランド戦略をさらに推し進めるため、赤れんが倉庫2棟を、「赤れんが工房」「赤れんがイベントホール」として整備するとともに、文部科学省3棟の赤れんが倉庫エリアを含む倉庫群エリア全体を、観光戦略拠点「赤れんがパーク」として、平成24年にグランドオープンさせました。

	<p>【赤れんが1号棟（赤れんが博物館）】 明治36年に旧舞鶴海軍の魚雷の倉庫として建設され、鉄骨とれんがを組み合わせた建築物としては、日本に現存する建物として最も古いものの中に入るといわれています。れんが建造物のもつ魅力とその歴史を多くの方々に理解していただくことを目的として平成5年に開設しました。</p>
	<p>【赤れんが2号棟（舞鶴市政記念館）】 明治35年に旧海軍兵器廠の倉庫として建設されたれんが造の倉庫で、終戦までは砲銃庫として、戦後は市役所の第二庁舎として使われました。 絵画や写真などの展示や音楽の発表などに利用できる吹き抜けのれんが空間を持つホールや飲食店を備え、人々の交流の場として、平成6年に開設しました。</p>
	<p>【赤れんが3号棟（まいづる智恵蔵）】 明治35年に旧海軍兵器廠の倉庫として建設されたれんが造の倉庫で、終戦までは弾丸庫並小銃庫として、戦後は民間倉庫会社の倉庫として使われました。 平成19年に先人の智恵を継承し、智恵を育む場として開設。現在は、舞鶴や海の京都エリアの土産物が並ぶ赤れんがショップのほか、旧海軍ゆかりの展示等を行っています。</p>
	<p>【赤れんが4号棟（赤れんが工房）】 明治35年に旧海軍兵器廠の倉庫として建設されたれんが造の倉庫で、終戦までは砲銃庫として、戦後は民間倉庫会社の倉庫として使われました。 扉や窓、瓦屋根などに当初の形式を再現しつつ、平成24年に工房やスタジオ等を備えた、市民のものづくりの拠点として開館しました。現在は、創作活動や音楽練習のほか、結婚式や披露宴会場としても利用されています。</p>
	<p>【赤れんが5号棟（赤れんがイベントホール）】 大正7年に旧海軍軍需部の倉庫として建設されたれんが造の倉庫で、終戦までは水雷庫として、戦後は民間倉庫会社の倉庫として使われた。赤れんが倉庫群の中で最も規模が大きく、明治期の倉庫と比べても堅牢な造りとなっています。 平成24年にその大きさを活かし、自由なレイアウトを可能とする多目的ホールとして開館しました。現在は、展示や音楽イベントのほか、バザール等の会場として利用されています。</p>
	<p>【芝生広場】 赤れんがパーク北側に広がる海を臨む芝生広場。「BRICK HOUSE」が置かれ、「赤れんが」「海・港」の空間で軽食等を楽しむことができます。</p>
	<p>【赤れんがロード】 専用駐車場から舞鶴赤れんがパークへのアプローチには、明治35年に建造された国所有の赤れんが倉庫3棟が連なります。そこには、かつて物品運搬通路として使われていたれんがを敷き詰めた道、赤れんがロードが広がります。 当時の面影を色濃く残すこのあたりでは、映画やテレビドラマのロケーションが頻繁に行われます。</p>

「赤れんがパーク」では、(一社)舞鶴観光協会をはじめ、様々な団体等と連携し、各施設を活用した多彩な事業、赤れんが倉庫を含む周辺の空間全体を活かしたイベント等を展開するとともに、海軍ゆかりの港めぐり遊覧船事業の実施をはじめ、舞鶴市のブランドイメージである「赤れんが」「海・港」が体感できるエリアの魅力づくりに取り組んできました。グランドオープン以降、来場者数は増加しており、平成27年には、年間約40万人が来場する市の重要な集客交流施設となっています。

①赤れんがパークの来場者数・施設利用状況

表2-1 赤れんがパーク来場者数

年次	来場者数
平成23年	10.4万人
平成24年	11.7万人
平成25年	18.5万人
平成26年	33.3万人
平成27年	39.9万人

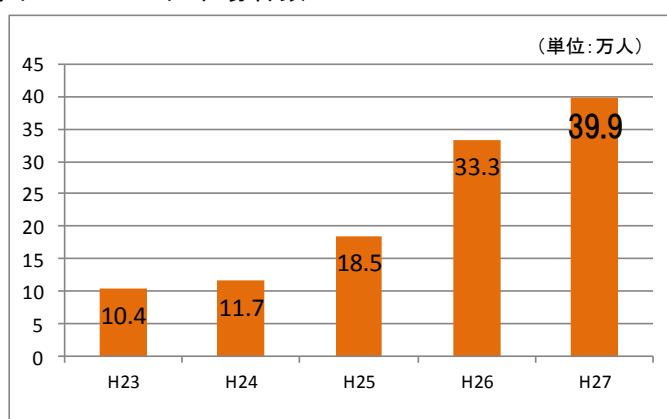


表2-2 赤れんがパーク施設利用率

施設名	平成25年度	平成26年度
全体	42.2%	53.4%
2号棟 (市政記念館)	40.1%	47.7%
3号棟 (智恵蔵)	55.2%	73.2%
4号棟 (赤れんが工房)	35.0%	39.9%
5号棟 (イベントホール)	38.6%	52.7%

② 賑わい創出に向けた取り組みの状況

- ・ビア・ワインホール、企画展、音楽・ファッションイベント、プロジェクションマッピング、ライトアップ等の事業を展開



- ・バザール、ライブ、ブライダル、サブカルイベント等での民間利用



「赤れんがパーク」西側の防衛施設は、近畿・北陸・中部圏唯一の海上自衛隊施設であり、日本海側における国防上の重要拠点であることはもちろんのこと、週末等を中心に、市内外から多くの方が見学に訪れる施設（北吸栈橋、海軍記念館、旧・東郷邸など）となっています。

表2-3 海上自衛隊施設見学者数

年 度	自衛隊施設見学者数
平成23年度	67,000人
平成24年度	70,000人
平成25年度	70,000人
平成26年度	95,000人

(出典：舞鶴自衛隊協力会会報「翔鶴」)



平成27年には、京阪神、北陸・中部圏を結ぶ高速道路ネットワークが完成し、京都府北部5市2町「海の京都」観光圏による広域観光の誘客も進む中、今後、京都府北部地域への来訪者のさらなる増加が見込まれているところであり、防衛施設との調和を図りながら、観光戦略拠点である「赤れんがパーク」を中心とした周辺エリア全体の機能の拡充が必要となっています。

「赤れんがパーク周辺エリア」に近接する「しおじ通り周辺エリア」には、舞鶴―北海道・小樽を結ぶフェリーが発着する舞鶴前島埠頭（前島フェリーターミナル）があり、人・モノの交流拠点、海の玄関口としての機能を有するとともに、前島みなと公園、総合文化会館、しおじプラザが所在し、市民交流の場としての機能も有しています。

平成26年4月には、しおじプラザと前島みなと公園を結ぶ「前島みなと歩道橋」が完成し、平成27年4月には、前島地区に子育て交流施設「あそびあむ」、「うみべのもり保育所」が開設、しおじプラザ南側に舞鶴YMC A国際福祉専門学校が開校するなど、エリア内に新たな人の流れが生まれています。

赤れんがパークと周辺エリアの特性を踏まえ、「赤れんがパーク周辺エリア」を重点検討エリアとして、周辺エリア、中心市街地との回遊性を高め、それぞれの機能を最大限に高める整備が必要となっています。

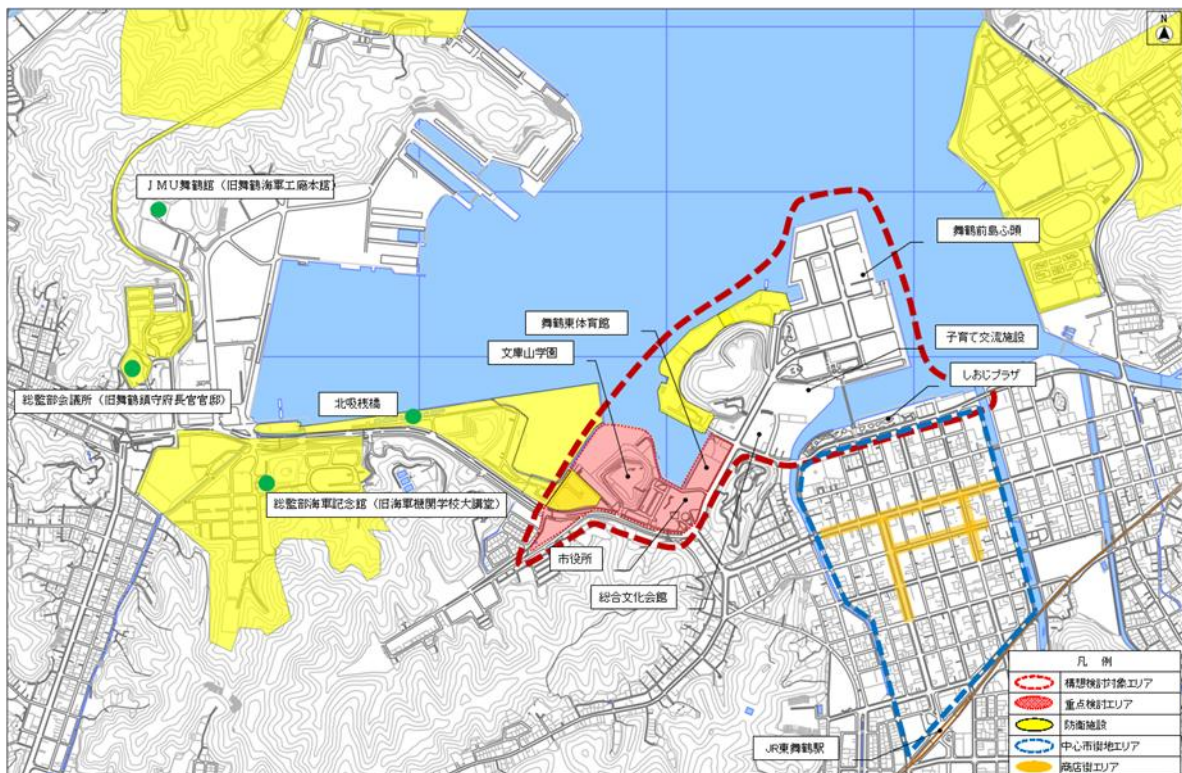


図2-1 「赤れんが周辺等まちづくり構想」計画対象エリア

(2) 計画対象エリアの現状

<重点検討エリア[全体]>

- エリアには、赤れんがパーク内に国の重要文化財に指定された赤れんが倉庫 8 棟、三角地に海上自衛隊施設として使用されている赤れんが倉庫 1 棟の計 9 棟が所在しています。
- エリア一帯には、文庫山や夕潮台公園、東山の丘陵が点在しており、文庫山は、赤れんがパークと駐車場の間に位置しています。



舞鶴署東庁舎前から市役所方向の景観



海から赤れんが倉庫3・4号棟の景観

図2-2(1) 計画対象エリアの現状 (航空写真、海からの景観)

<重点検討エリア[文庫山東側]>

- 文庫山東側には、転活用した赤れんが倉庫1～5号棟が集積しています。
- メディカルセンター前に遊覧船乗場があります。
- 赤れんがパーク芝生広場から西側市道沿いは民地となっています。市道海側には、プレジャーボート等が係留されています。



図2-2(2) 計画対象エリアの現状（文庫山東側）

<重点検討エリア[文庫山西側]>

- 文庫山西側には、赤れんがパーク専用駐車場、駐車場（土地開発公社用地）、赤れんがロード、赤れんが倉庫3棟（文部科学省所管）、三角地（防衛省所有地）、三角地南側（財務省所有地）があります。



図2-2(3) 計画対象エリアの現状（赤れんがパーク種変エリア西側）

<計画対象エリア[しおじ通り周辺エリア]>

- しおじ通り周辺エリアには、前島ふ頭、前島みなと公園、子育て交流施設「あそびあむ」、うみべのもり保育所、前島みなと歩道橋、しおじプラザ、総合文化会館、東山（財務省所有地）などがあります。
- 海路の導入部であるとともに、市民交流に資する施設が立地しています。



図2-2(4) 計画対象エリアの現状（しおじ通り周辺エリア）

(3) 計画対象エリアの土地の利用状況等

① 土地利用現況（舞鶴市都市計画基礎調査（H25.9））

- 計画対象エリアの大半は、公益施設用地とその他の公的施設用地（防衛施設用地）で占められています。



分 類		
田	水 田	
畑	畑、樹園地、採草地、養鶏（牛、豚）場、ビニールハウス	
山 林	樹 林 地	
耕作放棄地	耕作放棄地	
水 面	河川水面、湖沼、ため池、用水路、濠、運河水面	
その他の自然地	原野・牧野、荒地、低湿地、河川敷、河原、海辺、湖岸	
住 宅 用 地	住宅、共同住宅、店舗併用住宅、店舗併用共同住宅、作業所併用共同住宅	
商 業 用 地	業務施設、商業施設、宿泊施設、娯楽施設、遊戯施設、商業系複合施設	
工 業 用 地	運輸倉庫施設、重工業施設、軽工業施設、サービス工業施設、家内工業施設、危険物貯蔵・処理施設	
公 益 施 設 用 地	官公庁施設、文教厚生施設（A）、文教厚生施設（B）、処理場、浄水場、火葬場、発電所、変電所	
道 路 用 地	道路、駅前広場	
交 通 施 設 用 地	自動車ターミナル、立体駐車場、鉄道用地、空港、港湾	
公 共 空 地	公園・緑地、広場、運動場、墓苑	
その他の公的施設用地	防衛施設用地	
その 他 の 空 地	変更工事中の土地、未利用地、平面駐車場、ゴルフ場	
市 街 化 区 域 界		
都 市 計 画 区 域 界		

図2-3 土地利用現況図

② 土地所有現況

- 赤れんがパーク（1～5号棟・専用駐車場）、市役所、文庫山学園、東体育館、総合文化会館、子育て交流施設などの敷地は、市有地となっています。
- 前島ふ頭や京都府立総合庁舎、舞鶴署東庁舎などの敷地は府有地となっています。
- 東山合同宿舎跡地や東山山頂部、三角地の国道向い側の用地などは財務省、東山の沿岸部と三角地は防衛省、文庫山南側にある赤れんが倉庫3棟（以後、「文科省3棟」）は文部科学省が所管する国有地となっています。



図2-4 土地所有現況図

③ 計画対象エリア周辺の用途地域

- 計画対象エリアのうち、赤れんがパーク（1～5号棟・専用駐車場）、市役所、東体育館、総合文化会館等の街区は「第2種住居地域（建ぺい率 60%、容積率 200%）」、その他は「準工業地域（建ぺい率 60%、容積率 200%）」に指定されています。

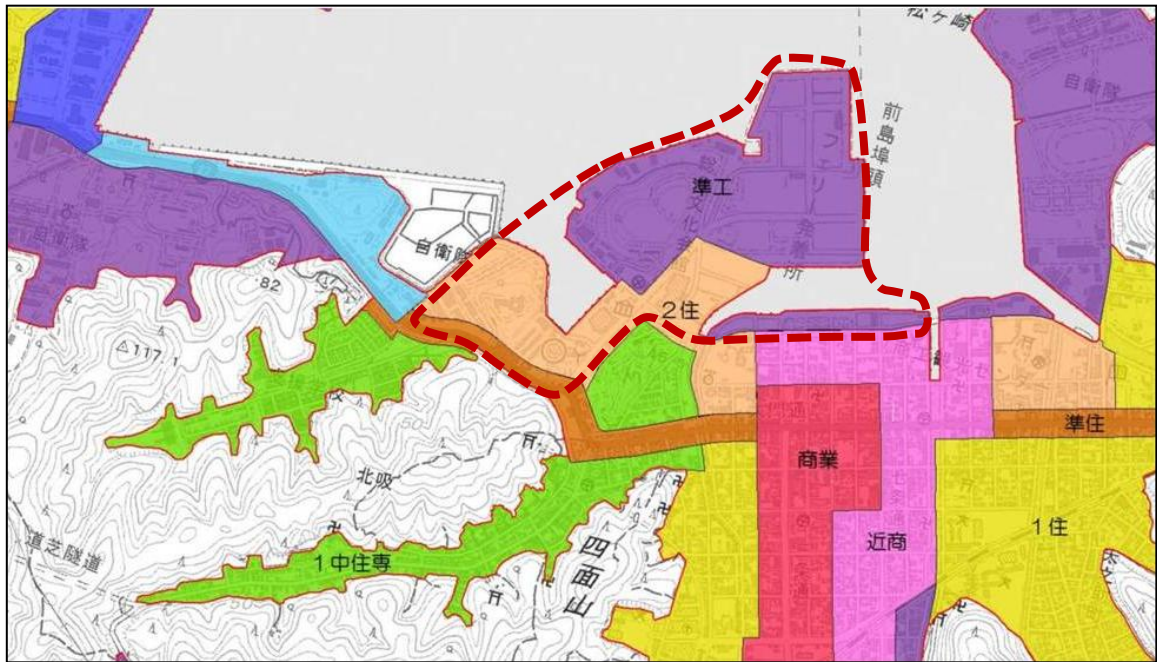


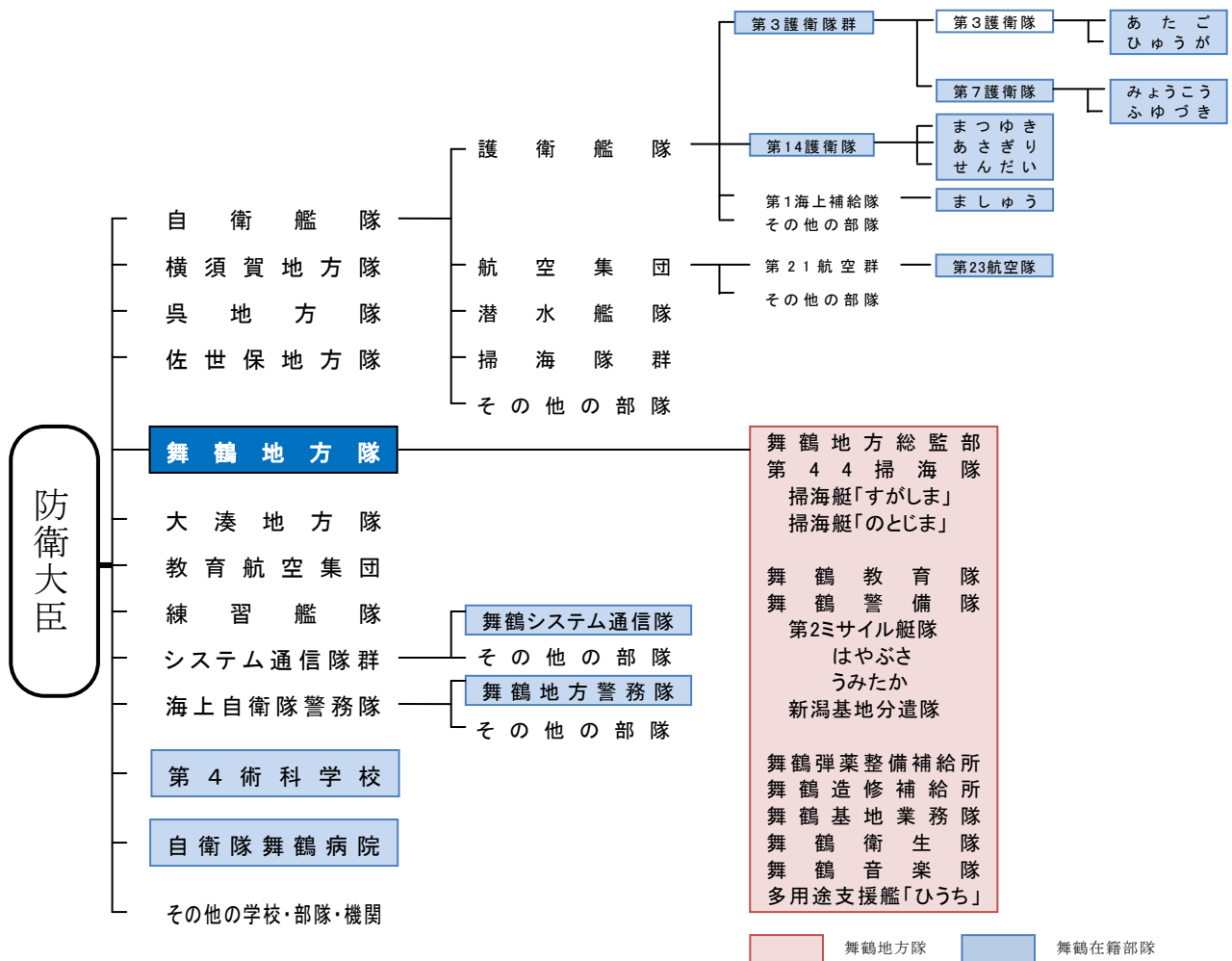
図2-5 用途地域図

2-2. 舞鶴基地の概況

(1) 舞鶴在籍部隊等の概要

本市には、秋田県から島根県に至る日本海側一帯を警備担当区域とする舞鶴地方隊(第44掃海隊、舞鶴教育隊、舞鶴警備隊等)及び舞鶴在籍部隊(第3護衛隊群、第7護衛隊、第14護衛隊、第23航空隊、第4術科学校等)が所在しています。

舞鶴地方隊では、自衛艦隊等が円滑に行動できるように、艦隊への補給・修理・人事などの後方支援業務も、地方隊の任務となっています。このほか、海岸に漂着した機雷等危険物の処理や災害・事故が発生した場合の救助・復旧・輸送等にも従事しています。



(護衛艦あたご)



(護衛艦ひゅうが)



(護衛艦みょうこう)

(2) 沿革

① 明治～終戦

- 明治34年 舞鶴鎮守府開庁（初代司令長官＝東郷平八郎海軍中将）
- 大正12年 ワシントン海軍軍縮条約により、鎮守府から要港部に規模縮小
- 昭和14年 鎮守府に復活
- 昭和20年 終戦、鎮守府廃止

② 戦後

- 昭和27年 海上警備隊舞鶴地方総監部発足
- 昭和29年 海上自衛隊発足
- 平成13年 ヘリコプター基地開港

(3) 近年の基地施設・活動の動向等について

- ・平成14年度 テロ対策特別措置法による護衛艦「はるな」インド洋へ派遣
以降、平成15年7月「はるな」、平成16年1月「みょうこう」、平成16年11月「ましゅう」、平成17年3月「しまかぜ」、平成18年6月「ましゅう」、平成19年3月「すずなみ」、計7回
- ・平成16年度 台風23号に対する災害派遣
- ・平成18年度 イージス艦「あたご」配備
- ・平成19年度 舞鶴航空分遣隊等から第23航空隊に改編、ヘリ機数の変更
第3護衛隊群等の護衛隊の改編
ダイワボウマテリアルズ舞鶴工場火災の消火活動支援
- ・平成20年度 補給艦「ましゅう」のインド洋補給支援活動
- ・平成21年度 哨戒ヘリSH-60K配備
護衛艦「すずなみ」、補給艦「ましゅう」、第23空のインド洋補給支援活動
護衛艦「あまぎり」、第23空のソマリア沖・アデン湾における海賊対処活動
- ・平成22年度 東日本大震災への災害派遣
第23空のソマリア沖・アデン湾における海賊対処活動
- ・平成24年度 第23空のソマリア沖・アデン湾における海賊対処活動
- ・平成25年度 護衛艦「ふゆづき」配備
第23空のソマリア沖・アデン湾における海賊対処活動
- ・平成26年度 護衛艦「ひゅうが」配備（平成27年3月）
- ・平成27年度 護衛艦「ひゅうが」を運用しての防災訓練・防災フェスタ実施（平成27年6月）
第7護衛隊、第23空のソマリア沖・アデン湾における海賊対処活動
護衛艦「せんだい」配備

(4) 近年の基地施設・活動の動向等について

① 「定期演奏会」「マリンコンサート」開催

本市・舞鶴地方隊の共催で、舞鶴音楽隊による「定期演奏会」「マリンコンサート」を毎年開催。定期演奏会は、50回を数える。

また、舞鶴音楽隊は、『みなと舞鶴ちゃったまつり』や、『消防出初式』をはじめとする市内の各種行事への出演をはじめ、中高生を対象とした演奏法講習会の実施など、音楽を通じた市民交流を積極的に行っている。



② 「サマーフェスタ」開催

海上自衛隊の現状を広く紹介し、理解を深めていただくことなどを目的に開催。

平成27年に実施された「サマーフェスタ2015」では、北吸岸壁において護衛艦一般公開のほか、陸・空自衛隊の装備品展示や特別機動船・曳船による港内巡り等各種イベントが行われ、同時に海軍記念館、舞鶴地方総監部会議所(旧東郷邸)の一般公開が実施されるなど、会場には約1万人が来場。



③ 舞鶴赤れんがハーフマラソン

平成25年度から、本市と海上自衛隊との共催により、自衛隊施設等をコースとする「舞鶴赤れんがハーフマラソン」を開催。毎年、全国から約2,000人が参加する。



④ 職場体験・部隊見学

市内の中学生を対象とした職場体験や、高校生の部隊見学等を受け入れている。



(5) 施設見学

- | | | | |
|--------------------|---|-------------|------------|
| ① 北吸棧橋・海軍記念館 | : | 毎週土曜、日曜及び祝日 | 午前10時～午後3時 |
| ② 舞鶴地方総監部会議所(旧東郷邸) | : | 毎月第1日曜 一般公開 | 午前10時～午後3時 |
| ③ 第23航空隊 | : | 毎週土曜、日曜及び祝日 | 午後2時～午後3時 |

2-3. 計画対象エリアのニーズ等把握

赤れんがパーク周辺エリアに対するニーズ、民間活力導入の可能性等について、「赤れんが周辺等まちづくり構想策定懇話会」において実施した市内商工事業者、観光事業者へのアンケート調査、舞鶴赤れんがパークブランディング機構、大手旅行業者へのヒアリング調査、及び「赤れんがフェスタ in 舞鶴2015アンケート」の赤れんがパークへの意見（自由記述）等の結果を整理しました。

（１）赤れんがパーク周辺等のまちづくりに関する企業ニーズ等把握調査結果

① 調査目的

赤れんが周辺等のまちづくり構想策定にあたり、赤れんがパーク周辺等に、今後必要とされる集客機能（飲食、物販、宿泊施設等）の導入に対する可能性、出店等に必要となる整備・支援策などについて、地元企業のニーズ・意向などを把握することを目的に実施しました。

② 調査概要

調査対象：市内商工事業者、観光事業者

（協力：舞鶴商工会議所、(一社)舞鶴観光協会）

調査方法：郵送による配布回収

調査時期：平成27年12月26日（土）から平成28年1月12日（火）まで

設問構成：問1－集客機能導入エリア別望ましい(必要な)機能と出店等の可能性

問2－出店等を促進する条件

問3－出店等を検討される赤れんがパーク周辺等におけるハード整備等

問4－集客力を向上させるソフト機能の充実

問5－活性化や交流人口拡大等につながるアイデア等（自由意見）

事業所名

出店等の可能性があるかと回答された方のヒアリング協力可否

出店等の可能性があるかと回答された方の連絡先

回答数：60件

赤れんがパーク周辺等のまちづくりに関する企業ニーズ等把握調査

◆アンケートのお願い

日頃は、市政の推進に格別のご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。
本市では、「交流人口300万人・経済人口10万人都市・舞鶴」の実現をめざし、本年10月に、有識者、産業界、まちづくり団体等で構成する「懇話会」を設置し、観光戦略拠点である赤れんがパーク周辺等を一大交流拠点とするための構想策定を進めております。

このたび、今後の赤れんが周辺等のまちづくり構想策定に反映することを目的として、赤れんがパーク周辺等に、今後必要とされる集客機能（飲食、物販、宿泊施設等）の導入に対する可能性、出店等に必要となる整備・支援策などについて、地元企業の皆様にご意向などを伺うアンケート調査を実施するものです。

ご多忙のところ誠に恐縮ですが、調査の趣旨をご理解いただき、アンケートにご協力くださいますようお願いいたします。

本アンケートは、舞鶴商工会議所並びに一般社団法人舞鶴観光協会にご協力いただき、会員企業様を対象に実施するものです。ご理解・ご協力をお願いいたします。

◆ご記入にあたって

1. 回答方法は、それぞれの質問にしたがって、回答欄に記述、また、選択肢のあてはまる番号を○印で囲んでください。（※○印の数は質問によって異なります。）
「その他」と回答されたときは、〔 〕内に具体的に内容をご記入ください。
2. 答えられない、よくわからない、回答したくない質問などがあつた場合は、空白のまま次で次の問に進んでいただいて結構です。

◆回答用紙の返信に関するお願い

回答用紙は、お手数ですが、同封してあります返信用封筒に入れ、

平成28年1月12日（火）までに、

ご投函ください。

◆アンケート調査に関する問い合わせについて

アンケート調査の中で不明な点や質問などがございましたら、下記の問い合わせ先までご連絡ください。

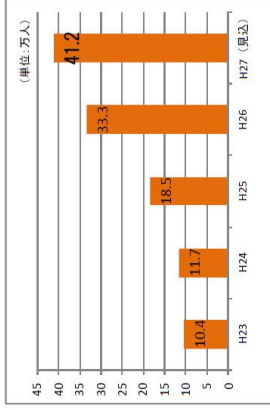
【問い合わせ先】

舞鶴市 企画管理部 企画室 企画政策課 担当：山本、言上
電話：0773-66-1042

◆参考：現在の赤れんがパーク周辺等の状況

＜来場者数：毎年増加＞

平成23年	10.4万人
平成24年	11.7万人
平成25年	18.5万人
平成26年	33.3万人
平成27年	41.2万人(見込)



＜赤れんがパーク周辺の週末等の状況：多くの人出でにぎわう＞



◆赤れんがパーク周辺等の整備の方向性・必要な機能(懇話会意見概要)

＜整備の方向性＞

- ◇ゲートウェイ(玄関・導入部)の機能強化
- ◇ウォーターフロントを活かした空間づくり
- ◇エリア回遊性の向上
- ◇観光機能と商業機能の充実

＜必要な機能＞

- 駐車場機能
- 休憩機能(トイレ等)
- 景観機能(緑地・看板等)
- 回遊機能(道路・歩道等)

民間活力の積極的な導入が重要

- 飲食機能
- 物販機能
- 宿泊機能

◆重点検討エリア図



<集客機能（飲食、物販、宿泊等）導入エリアの概要>

エリア名	現 状	敷地面積等	既存建物等
① 三角地エリア	防衛省施設用地	約10,000㎡	赤煉瓦建造物1棟有
② 親水エリア	市役所駐車場用地	約11,790㎡	
③ 文庫山エリア	老人福祉センター 及び駐車場	約 5,600㎡	RC造1階建 (1980年建築・築35年) 延床面積：1,986.86㎡ 駐車台数50台(普43・軽7)
④ 遊覧船エリア	遊覧船乗り場 医師会施設等	約 2,000㎡	
⑤ 三角地南側エリア	広場用地(財務省用地)	約 5,000㎡	
⑥ 東山エリア	⑥-1 東山合同宿舍跡地 ⑥-2 東山山頂部 (財務省用地)	⑥-1 約 6,600㎡ ⑥-2 約40,000㎡	
⑦ ①～⑥以外の 重点検討エリア			

◆アンケート

アンケートにお答えください。

問1.「◆重点検討エリア図」に示した「集客機能導入エリア」について、それぞれのエリアにどのような機能が望ましい（必要）と思われるか。また、どのエリアであれば出店等の可能性がありますか。

エリア名	具体的な機能イメージ (飲食、物販、宿泊、サービス業などの施設・店舗をはじめ、それぞれのエリアに必要なと思われる機能や施設等をお書きください)	出店等の可能性 (該当する欄に○印をお書きください)
※記入例	※海の見えるレストラン、農産物直売所、書店、ホテル、コテージ、シアター等 展望台、博物館、モニュメント、緑地、休憩所等	
①三角地エリア		
②親水エリア		
③文庫山エリア		
④遊覧船エリア		
⑤三角地南側エリア		
⑥東山エリア		
⑦(※) ①～⑥以外の重点 検討エリア		

※⑦については、具体的な場所を付記していただきますようお願いいたします。
(例) 赤れんがパーク駐車場の道路沿いに移動店舗 など

問2. どのような条件があれば出店等が促進されますか。(〇印はいくつでも)

① 出店区画規模や営業時間などの自由な条件選択	
② 賃料等の出店条件	
③ 出店に対する資金面での支援(補助・融資等)	
↓ 希望する具体的な支援内容があればご記入ください	
[]
④ 水道・電気・ガス等の環境整備	
⑤ その他 []

問3. 赤れんがパーク周辺等に、どのようなハード等整備があれば、出店等を検討されますか。(〇印はいくつでも)

① 赤れんがパークへのアクセスや駐車場などの機能の向上	
② 水際のボードウォークや、遊覧船待合所など親水空間の整備	
③ 緑地や公園広場などの整備	
④ 展望施設などの整備	
⑤ ライトアップなどの夜の景観づくり	
⑥ 自衛隊施設への動線機能の向上	
⑦ その他 []

問4. 赤れんがパーク周辺等に、どのようなソフト機能の充実があれば、集客力がさらに向上すると思われますか。(〇印はいくつでも)

① 子ども連れで家族などが憩える(時間を過ごせる)機能	
② 海軍ゆかりの歴史・文化や、海上自衛隊の情報等を発信・PRする機能	
③ 湾内遊覧船など船上での飲食機能	
④ その他 []

問5. 赤れんがパーク周辺の活性化や、交流人口の拡大等につながるアイデアなどありましたら、ご自由にお書きください。

--

◆ アンケート基本情報等

◇ 事業所名をご記入ください。

事業所名	
------	--

◇ 「問1」で「出店等の可能性」の欄に「〇」を記入いただいた事業所様へのお願いです。具体的な内容などの追加ヒアリングにご協力いただけますでしょうか。(いずれかに〇をお付けください。)

① 協力可能	② 協力不可
--------	--------

※ 「協力可能」に〇をお付けいただいた事業所様へは、後日連絡をいたしますので、下記連絡先欄へのご記入をお願いいたします

連絡先	御担当者
	電話番号

*** アンケートは以上です。ご協力ありがとうございました。***

★なお、本アンケート調査につきましては、舞鶴市から調査委託を受けた、株式会社ニュージェック(大阪府大阪市北区)が、発送、回収、集計等を行っております。

④ 集計結果

問1－集客機能導入エリア別望ましい(必要な)機能と出店等の可能性

集客機能導入エリア別望ましい(必要な)機能の上位3位は下表のとおりです。

各エリアの1位のみを述べると、「① 三角地エリア」は「物販施設」、「② 親水エリア」、「③ 文庫山エリア」、「④ 遊覧船エリア」、及び「⑦ その他」は「飲食施設」、「⑤ 三角地南側エリア」は「駐車場」、「⑥ 東山エリア」は「宿泊施設」となりました。

問1-1 集客機能導入エリア別望ましい(必要な)機能

	1位	2位	3位
① 三角地エリア	物販施設	飲食施設	道の駅
② 親水エリア	飲食施設	緑地	駐車場
③ 文庫山エリア	飲食施設	展望施設	宿泊施設
④ 遊覧船エリア	飲食施設	物販施設	乗船待合施設
⑤ 三角地南側エリア	駐車場	飲食施設	物販施設
⑥ 東山エリア	宿泊施設	展望施設	公園
⑦ その他	飲食施設	回遊路整備	市役所体育館の移転

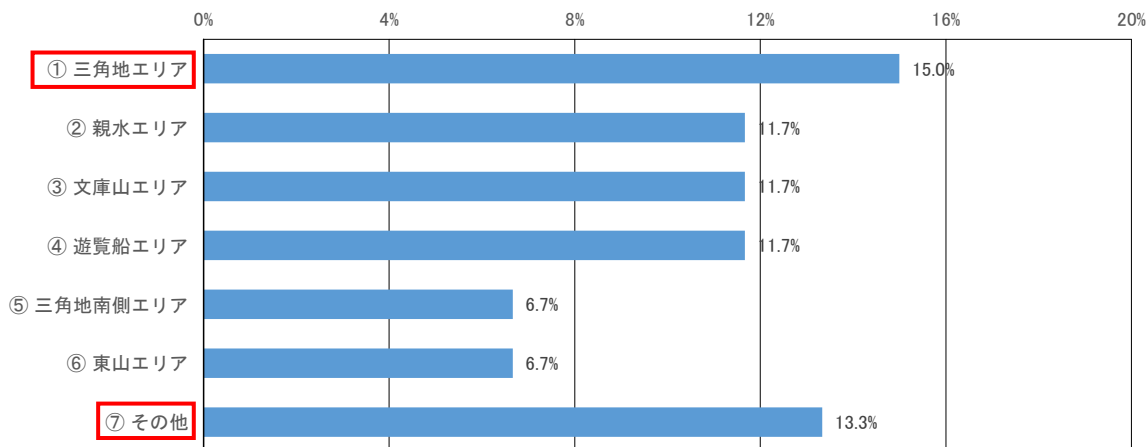
※集客機能導入エリア別望ましい(必要な)機能の集計方法について

エリア別にかかれた機能イメージをキーワード整理しました。回答欄に複数の機能イメージが書かれている場合は、複数回答としてカウントしました。

集客機能導入エリア別出店等の可能性は、「① 三角地エリア」が最も多く15.0%、以下、「⑦ その他」が13.3%、「② 親水エリア」「③ 文庫山エリア」「④ 遊覧船エリア」が各々11.7%などとなりました。

集客性の高いロードサイドで、かつ現在の「赤れんがパーク」に接している三角地エリアが最も高い評価を得ましたが、次位は眺望の良いエリアが高い評価を得ています。

問1-2 出店等可能性



「⑦ その他」における具体的な場所と出店イメージ等は、下表のとおりです。

「文科省の赤れんが 3 棟及び三角地の赤れんが」で「店舗等」、「ブリックハウス近く」や「市政記念館の外の市役所側」で飲食施設などがあげられました。

問1-3 「⑦ その他」の具体的な場所と機能イメージ

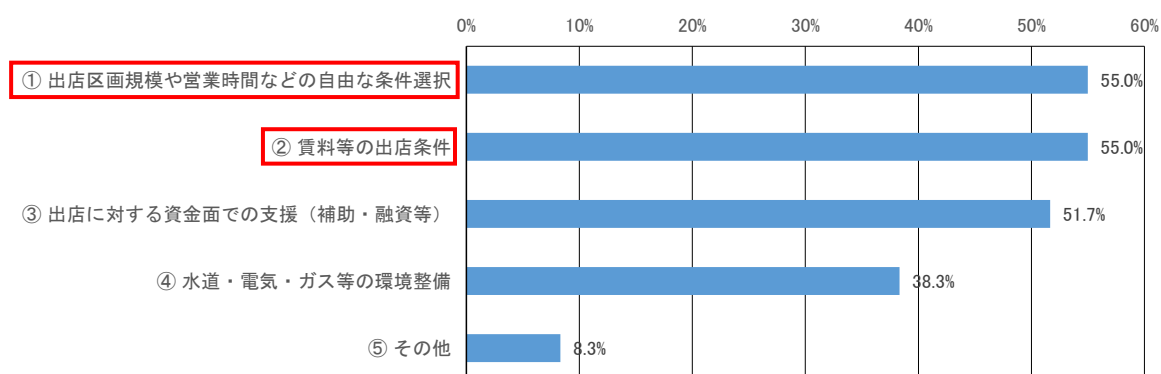
場 所	具体的な機能イメージ
文科省の赤れんが 3 棟及び三角地の赤れんが	店舗等
ブリックハウス近く	レストラン、テイクアウトフードetc
市政記念館の外の市役所側	ゆっくり食事のできるお店
赤レンガパークの門前街として民間の出店運営を促す。	屋台街など
※場所の指定なし	アメ横的な市場etc

問 2 ー 出店等を促進する条件

出店等を促進する条件としては、「① 出店区画規模や営業時間などの自由な条件選択」と「② 賃料等の出店条件」ともに最も多く55.0%、以下、「③ 出店に対する資金面での支援（補助・融資等）」が51.7%、「④ 水道・電気・ガス等の環境整備」が38.3%などとなりました。

出店募集の際の条件提示（設定）が重要と考えられます。

問2 出店等促進条件

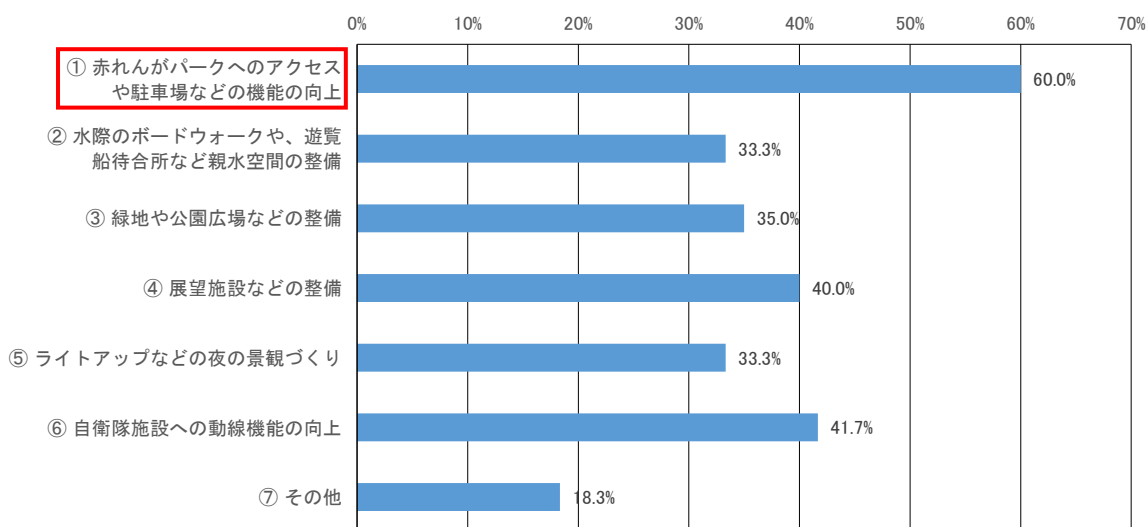


問3 ー出店等を検討される赤れんがパーク周辺等におけるハード整備等

出店等を検討される赤れんがパーク周辺等におけるハード整備等については、「① 赤れんがパークへのアクセスや駐車場などの機能の向上」が最も多く60.0%、以下、「⑥ 自衛隊施設への動線機能の向上」が41.7%、「④ 展望施設などの整備」が40.0%などとなりました。

「赤れんがパーク」に来ていただくための環境整備が重要視されています。

問3 出店検討のためのハード等整備

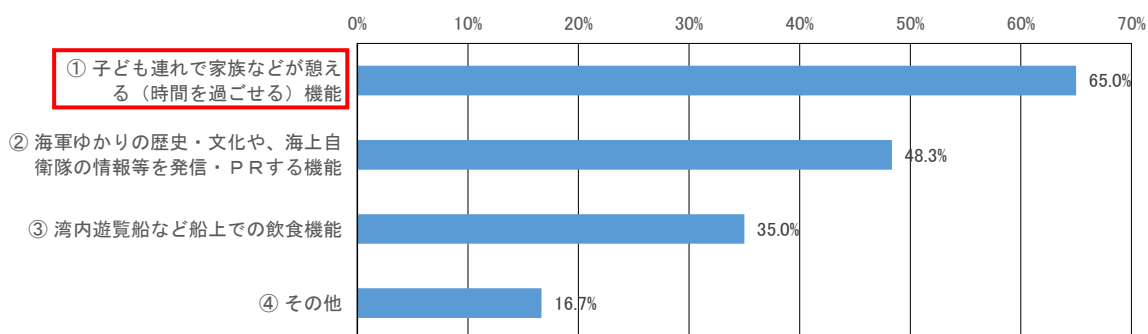


問4 ー集客力を向上させるソフト機能の充実

集客力を向上させるソフト機能の充実については、「① 子ども連れで家族などが憩える（時間を過ごせる）機能」が最も多く65.0%、以下、「② 海軍ゆかりの歴史・文化や、海上自衛隊の情報等を発信・PRする機能」が48.3%、「③ 湾内遊覧船など船上での飲食機能」が35.0%などとなりました。

市内事業者として、リピート率の高い子ども連れ家族をターゲットとしている方が多いと思われます。

問4 集客力向上のためのソフト機能の充実



問5－活性化や交流人口拡大等につながるアイデア等（自由意見）

活性化や交流人口拡大等につながるアイデア等（自由意見）については、以下の記述がありました。

飲食施設（地産地消型も含む）と物販施設（地場物産、お土産を含む）充実、宿泊施設の整備などの記述がみられました。

また、「遊覧船の機能強化」や「『自衛隊』『海』のテーマパーク」、「東山地下壕（地下司令室）の観光利用」など、観光機能の強化充実に関する記述もみられました。

キーワード	
飲食施設（地産地消型も含む）充実	回遊機能の充実
宿泊施設整備	競艇場整備
物販施設（地場物産、お土産を含む）充実	景観形成の仕組みづくり
フィルムコミッション	結婚式場整備
温浴施設整備	公園整備
海上自衛隊との連携	子どもが楽しめる施設の整備
休憩施設整備	子ども世代の意見反映
市役所体育館の移設	市内全域での「赤れんが」「海軍ゆかりのまち」のまちづくり
自衛隊見学施設との動線整備	市民向けの施設整備
水産物の販売	市役所体育館（跡地）の観光利用
西舞鶴地区もまちづくりを	集客力のあるテナント募集
東舞鶴駅との動線整備	将来機会があればチャレンジ
東舞鶴商店街との連携強化	水族館整備
（大型）トイレ整備	前島～赤れんがワークの海岸を回遊路に
「しおじ通り周辺エリア」の整備推進	前島に駐車場整備
「海軍ゆかりの地」ツーリズム	体育館医師会施設の移設
「自衛隊」「海」のテーマパーク	退役自衛艦を宿泊施設利用
「赤れんが博物館」付近に大型バス対応駐車場整備	大型複合施設整備
カジノ誘致	地域振興に実績のある民間企業への運営委託
シティプロモーション	駐車場の増設
スポーツ施設整備	東山地下壕（地下司令室）の観光利用
パーク全体を「道の駅」化	美術館整備
パーク導入部の整備	福祉施設整備
パーク内の移動支援	平等な参入機会の確保
プール整備	遊覧船の機能強化
ボードウォーク整備	夕潮台公園の再整備
リピーター増につながるイベントの実施	来訪者分析必要
レンタサイクル導入	屋外イベント施設整備
飲食施設の夜間営業	市内観光施設連携
映画館整備	

(2) 先駆的な地域ブランディングに取り組むプロデューサー等へのヒアリング結果

① ヒアリング目的

赤れんが周辺等まちづくり構想の策定にあたり、幅広いネットワークや豊富なノウハウを活かし、先駆的な地域ブランディングに取り組むプロデューサー等から、赤れんがパーク周辺等のブランディング、空間形成、ソフト開発の視点等について、意見・考え方、アドバイスなどを得ることを目的に実施しました。

② ヒアリング概要

実施日時：平成27年11月20日（金）

対象者：舞鶴赤れんがパークブランディング機構

丸の内ハウス事務局 玉田氏、(株)テーブルビート 佐藤氏

(株)乃村工芸社 藤中氏

③ ヒアリングにおける主な意見

<エリア活性化の視点>

項目	意見
①活性化の視点 (施設機能)	・何を赤れんがパークの魅力(売り、目玉)とするのか、人が来るような魅力とは何か、差別化が重要である。舞鶴にしかない、ここでしか味わえないものを創出することが必要。もう一度訪れようと思うような空気感をつくるのが大切。
②活性化の視点 (コンテンツ)	・海上自衛隊との連携が強化できれば、舞鶴にしかないコンテンツができる。自衛隊と一緒にイベントができればよい。そうすれば自衛隊の聖地となっていく(アニメの聖地ではなく)。
③活性化の視点 (運営)	・運営は仕組みづくり。運営を行いながら、次の仕組みを考える。エリアの機能強化には、仕組みを変えないと変わらない。

<地域・市民の視点>

項目	意見
①市民への情報 発信	・情報発信を積極的に行い、地元の人に受け入れてもらい、意識を変え、目を向けてもらうことが重要。 ・中高生が戻ってくるような情報発信が必要。
②憩いの場としての赤れんが パーク	・市民が365日訪れるような市民憩いの場にすれば、観光客も増え、自然と市民・観光客のふれあい交流ができる。

<施設機能配置等への意見>

項 目	意 見
①ゲート ウェイ機能	<ul style="list-style-type: none"> ・三角地エリアは、赤れんがパークの顔とすべき。
②商業機能	<ul style="list-style-type: none"> ・商業機能の拡充が必要。 ・海側に飲食店があってもよい。
③観光機能	<ul style="list-style-type: none"> ・現在の赤れんがパークには、平日に見られるコンテンツ、舞鶴の歴史を体験・体感できる施設が少ない。 ・今の観光の状況は、オリンピックまでである。インバウンドには、早急に対応強化が必要。多言語表記など外国人対応のコンテンツを至急整備すべき。
④宿泊機能	<ul style="list-style-type: none"> ・宿泊施設（機能）の整備は、既存ホテルを巻き込んでいくことが大切。 ・宿泊施設について、富裕層かバックパッカーかの選択があるが、バックパッカーは、フェイスブック等に情報をアップしてくれるので、情報が広まりやすい。
⑤回遊路	<ul style="list-style-type: none"> ・専用駐車場は赤れんがパークから遠く、その間が弱い。歩いて楽しくなる仕組み・仕掛けが必要である。 ・ウォーターフロントのボードウォークなどの歩行動線は必要。
⑥駐車場	<ul style="list-style-type: none"> ・団体客の受け入れは、市役所側駐車場に観光バスが停車できるようにするなど市全体の施設で対応する方が良い。
⑦植栽	<ul style="list-style-type: none"> ・文庫山は特徴ある植生。植生を生かしつつエッジにサクラを植えるなどして華やかさを演出。市民に整備・維持管理に参画してもらうことで、地域の一体感がより一層強まる。
⑧その他	<ul style="list-style-type: none"> ・市民は、平日・日中は働いているので、出てくるのは夜になるが、今の赤れんがパーク周辺をはじめ、舞鶴には、夜に出て行く場所が少ない。夜の時間帯において、新たな交流を生み出す仕掛け、空間づくりが重要であり、赤れんがパークに夜間飲食等を可能とする機能を持たせてはどうか。結果として観光客も来る。夜も観光の重要な思い出になるようにする。

<事例として>

項目	意見
①倉庫活用	<ul style="list-style-type: none"> ・寺田倉庫（東京都品川区）は30年かかっている。水辺レストランや水上ラウンジアート事業などを行っている。 ・尾道にある「ONOMITI U2」は倉庫を利用した施設で、倉庫の中に宿泊や物販、飲食があり、人が貯まるような空気感がある。
②市民交流	<ul style="list-style-type: none"> ・富山県のリビングアートイン大山の公民館の壁は、毎年、メンテナンス（塗装）が必要となるよう意図的に杉板で作っており、塗装を市民が行うことで、市民が交流する機会を作っている。
③振興策	<ul style="list-style-type: none"> ・城崎国際アートセンター（アートインレジデンス）は、世界のパフォーマーの活動の場（舞台や宿泊は無料。飲食などは有料。）を提供し、パフォーマンスで観光客をもてなしている。市民にも見てもらおうと共に小学生に教えている。 ・城崎温泉は、夜に人が出歩く仕組みを作っている。

(3) 舞鶴へのツアー企画等を実施している旅行者等へのヒアリング結果

① ヒアリング目的

赤れんが周辺等まちづくり構想の策定にあたり、団体旅行等を受け入れるために必要となる施設機能について、舞鶴へのツアー企画等を実施している旅行者含め、バスツアーやパック旅行等を企画運営等している旅行者から、意見、アドバイスなどを得ることを目的に実施しました。

② ヒアリング概要

実施日時：平成27年1月下旬

対象者：阪急交通社（関西圏）、JTB（関西圏）、日本旅行（首都圏）、
京阪トラベル（関西圏）、HIS（関西圏）

③ ヒアリングにおける主な意見

項目	意見
バスツアーの 造成について	<ul style="list-style-type: none">・東舞鶴は、宿泊施設（団体客に対応した料理提供、温泉等）が少ないため、バスツアーを組みにくい。・（立ち寄り施設の）最低の目安として、観光資源（観光メニュー）は、3つ選ぶことができ、1時間滞在が基本。・無料の自衛艦見学は（他社と差別化する上でも）魅力的である。ただし、見学できない日があったり、甲板に上がれない日があったりでは難しい。・複数の観光資源をセットにし、それを数パターン用意すれば、オプションツアーとして組み込めるし、滞在時間も延ばすことができる。
団体客に対応 した施設整備 について	<ul style="list-style-type: none">・施設整備は人出に合わせてフレキシブルに対応できるようにする。例えば、トイレは周辺公共施設を利用、物販は体育館を利用、飲食は屋台などを活用するなど。・トイレは、バリアフリー対応があること、きれいであること、各施設と駐車場に配置されていることが望ましい。
飲食施設に ついて	<ul style="list-style-type: none">・バス1台分（40～45名）の席数が、一般客とは別に確保できることが望ましい。・他社との日程行程の重なりもあるので、ツアー企画会社としては、バス2台分以上あった方が企画しやすい。・ケータリング対応でも問題はない。

項 目	意 見
物販施設について	<ul style="list-style-type: none"> ・地元有名スイーツ店の実演販売、地元芸術家の作品販売等があれば、魅力の一つにはなる。ただし、赤れんが倉庫、海軍ゆかり、海上自衛隊の雰囲気にもマッチしたもの。赤れんが倉庫で鮮魚販売などは雰囲気に合わない。 ・滞在時間を延ばすために、セレクトショップなどを入れ、見て回る、楽しむことができるようにすることが必要。
宿泊施設について	<ul style="list-style-type: none"> ・宿泊施設は当地にあることが必須ではないが、夜景を楽しんでもらうなら、近くにある必要がある。 ・宿泊施設には、料理や温泉など、そこに泊まる魅力、周辺環境（景観、賑わい風情、静けさ）が大事。
遊覧船について	<ul style="list-style-type: none"> ・遊覧船は平日も行ってもらえるとツアー造成しやすい。 ・定員80名（着席約50名）では小さく、もっと大きい方が望ましい。もしくは、増便（臨時便）対応があればツアーに組み込みやすい。 ・自衛隊OBによる説明も、全便にあった方が望ましい。
観光機能について	<ul style="list-style-type: none"> ・れんがづくりや陶器づくりなどの体験メニューの、ツアーへの組み入れ要望は多い。
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・まちづくりのコンセプトと誘致するターゲットの明確化が重要。 ・人を集めるために何を創るのかを考えなければならないが、その際、赤れんが倉庫、海軍、海上自衛隊のイメージを捨ててはならない。 ・例えば、商店街や周辺市街地も含め、「海軍ゆかりのまち」で特化したまちづくり（まちなみ、飲食物販等）を進め、「赤れんがパーク」と連携を図り、回遊性を高め（赤れんがパーク⇔商店街が歩いて回遊できるようにする）、観光客の滞在時間を延ばし、活性化をともに図ることで、観光地としての魅力が向上する。 ・まち全体でウェルカム（招く姿勢）になる観光地づくりが必要である。 ・（まちを）回遊する仕組みづくりが必要であるが、市内を回遊するための2次アクセス（巡回バス、レンタカー、市街地各所の駐車場等）が不足している。

(4) 来場者アンケート調査結果（赤れんがパークに対する要望等）

「赤れんがフェスタ in 舞鶴 2015 アンケート」から、赤れんがパークへの意見（自由記述）の概要を抜粋（協力：（一社）舞鶴観光協会）

① 調査概要

調査対象：「赤れんがフェスタ in 舞鶴 2015」来場者

調査主体：（一社）舞鶴観光協会

調査方法：物販コーナーにおける配付回収

調査時期：平成27年10月24日（土）、25日（日）

② 赤れんがパークに対する要望等

（赤れんがパークに対する意見（自由記述）の概要を抜粋）

市内来訪者の要望等としては、飲食施設や物販施設、子どもが遊べる施設などの充実があげられており、自分たち市民が「赤れんがパーク」に来て過ごすために必要な施設を求めています。

市外来訪者の要望等としては、2つに分けられ、駐車場整備や駐車場への案内、トイレの充実など移動や休憩に関する機能充実と、舞鶴の歴史展示の充実など、観光地をもっと知る、楽しむことに関する機能充実を求めています。

内の眼（市内来訪者）	外の眼（市外来訪者）
<p>●<u>グルメ・飲食施設、物販施設やフリーマーケットの充実</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 飲食スペースの充実（女、30代） ・ グルメの充実（女、20代） ・ 横浜、神戸のように赤れんがの雰囲気を活かした飲食エリアの充実（女、40代） ・ レストラン、クラフトなどのおしゃれな店（女、50代） ・ アニメイト（アニメ販売店）（女、10代） ・ フリーマーケット（女、30代） ・ フリーマーケット（女、30代） <p>●<u>子供の遊べる場の充実</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 子どもの遊べる公園（女、30代） ・ 子どもの遊べる公園（女、10代） ・ 子どもの遊べる場（女、30代） ・ 子どもが作品を使用したり作ったりできるもの（女、40代） <p>●<u>イベントの充実</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ イベントの充実（女、30代） ・ クラシックカーイベント（男） ・ イベント時の駐車場（男、40代） 	<p>●<u>駐車場整備や駐車場への案内の充実</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 駐車場の表示を増やして（女、40代） ・ 駐車場の整備（遠い）（女、40代） <p>●<u>イベント時のトイレの増設</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ イベント時のトイレの増設（仮設）（女、40代） ・ イベント時のトイレの増設（女） <p>●<u>舞鶴の歴史展示の充実</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 歴史紹介would like to know more history（男、70代 USA） ・ 舞鶴の歴史展示（女、60代） <p>●<u>その他</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 飲食スペースの充実（男、60代） ・ 艦船への眺望（船が見たい）（女、70代）

(5) 赤れんがパーク周辺エリアに対するニーズ整理

赤れんがパーク周辺エリアに対するニーズについて、市内商工事業者、観光事業者へのアンケート調査、舞鶴赤れんがパークブランディング機構、大手旅行者へのヒアリング調査、「赤れんがフェスタ in 舞鶴2015アンケート」の赤れんがパークへの意見（自由記述）を基に、「市民・来訪者の視点」と「事業者・専門家の視点」、及び「内の目（市内住民・市内事業者）」と「外の目（市外住民・市外事業者）」でニーズ等を整理しました。

	内の眼（市内住民・事業者）	外の眼（市外住民・事業者）
市民・来訪者視点	赤れんがパークに対する要望等 （赤れんがフェスタ来訪者聞き取り調査：自由記述抜粋）	
	<ul style="list-style-type: none"> ● グルメ・飲食施設、物販施設やフリーマーケットの充実 ● 子供の遊べる場の充実 ● イベントの充実 	<ul style="list-style-type: none"> ● 駐車場整備や駐車場への案内の充実 ● イベント時のトイレの増設 ● 舞鶴の歴史展示の充実 ● その他 <ul style="list-style-type: none"> ・ 飲食スペースの充実や艦船への眺望
事業者・専門家視点	市内商工事業者、観光事業者ニーズ （事業者アンケート調査）	旅行者ヒアリング 専門家(ブランディング機構)ヒアリング
	<ul style="list-style-type: none"> ● 導入が望ましい（必要な）機能 <ul style="list-style-type: none"> ・ 「飲食施設」が最も多く、ついで「物販施設」、「駐車場」等 ● 出店等可能性 <ul style="list-style-type: none"> ・ 「三角地」、次いで「親水エリア」「文庫山エリア」「遊覧船エリア」が高評価（「その他」を除く） ● 出店等を促進する条件 <ul style="list-style-type: none"> ・ 出店募集の際の条件提示（設定）が重要 ● 出店検討のためのハード整備 <ul style="list-style-type: none"> ・ 「赤れんがパーク」に来ていただくための環境整備を重視 ● 集客力を向上させるソフト機能 <ul style="list-style-type: none"> ・ リピート率の高い子ども連れ家族をターゲットとしている方が多い 	<p style="text-align: center;">＜事業者意見(旅行者)＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ● まちづくり <ul style="list-style-type: none"> ・ 周辺市街地も含めたまちづくりによるまち全体の魅力向上 ● バスツアー等の企画造成 <ul style="list-style-type: none"> ・ 宿泊施設があれば造成しやすい ・ 自衛艦見学は魅力 ・ 複数の観光資源をセットにし、複数パターンを用意 ● 2次アクセス <ul style="list-style-type: none"> ・ 巡回バス、レンタカー、駐車場等の整備 ● 施設拡充 <ul style="list-style-type: none"> ・ 人出に合わせてフレキシブルに対応できるように ● 物販施設 <ul style="list-style-type: none"> ・ 赤れんが倉庫、海軍、海上自衛隊の雰囲気マッチしたもの ・ 滞在時間を延ばすため見て回る楽しみをつくる

	内の眼（市内住民・事業者）	外の眼（市外住民・事業者）
事業者 ・ 専門家 視点	<p style="text-align: center;">市内商工事業者、観光事業者ニーズ (事業者アンケート調査)</p> <ul style="list-style-type: none"> ●活性化や交流人口拡大等につながるアイデア等 ・飲食施設（地産地消型も含む）と物販施設（地場物産、お土産を含む）の充実、宿泊施設の整備などの記述が多い ・「遊覧船の機能強化」や「『自衛隊』『海』のテーマパーク」、「東山地下壕（地下 司令室）の観光利用」など、観光機能の強化充実に関する記述も 	<p style="text-align: center;">旅行者ヒアリング 専門家(ブランディング機構)ヒアリング</p> <ul style="list-style-type: none"> ●宿泊施設 <ul style="list-style-type: none"> ・当地にあることは必須ではない ・夜景を楽しんでもらうためには近くに必要 ・そこに泊まる魅力(料理、温泉)、周辺環境(景観、賑わい風情、静けさ)が大事 ●遊覧船 <ul style="list-style-type: none"> ・平日も運航してほしい ・大型化、もしくは増便対応してほしい ●観光機能 <ul style="list-style-type: none"> ・団体客対応できる体験メニューの要望が多い ●トイレ <ul style="list-style-type: none"> ・多くを整備する必要はない <p style="text-align: center;"><専門家意見(ブランディング機構)></p> <ul style="list-style-type: none"> ●商業機能の拡充 <ul style="list-style-type: none"> ・海側に飲食店があってもよい。 ●夜間の賑わいづくり <ul style="list-style-type: none"> ・夜に飲食店を開いておく、ライトアップ等 ●回遊・ネットワーク形成 <ul style="list-style-type: none"> ・駐車場と赤れんがパークの間に歩いて楽しい仕組みが必要 ・ウォーターフロントのボードウォーク ●文庫山のサクラ植栽など ●海上自衛隊との連携 <ul style="list-style-type: none"> ・連携イベントなど舞鶴独自の情報発信

3. 計画対象エリアの課題等整理

(1) 赤れんがパークと周辺エリアの課題整理

<赤れんがパーク>

○「赤れんがパーク」へのアプローチの明確化と駐車場機能の充実

- ・案内サインの整備等による観光駐車場入口の明確化
- ・エントランス（赤れんがパーク専用駐車場入口付近）の改善（修景等）
- ・駐車場機能（観光バスを含む）の充実（駐車台数の確保）
- ・防衛省三角地、土地開発公社所有地、財務省用地等の（取得）活用
- ・三宅団地前交差点と舞鶴市役所前交差点の改良

○「海辺と赤れんが」の関連性の強化

- ・赤れんがパーク専用駐車場北側（土地開発公社所有地）の水際線活用
- ・海上遊覧機能の充実と遊覧船待合場所等の整備
- ・赤れんがパーク北側護岸沿い係留船舶の整理
- ・赤れんがパーク専用駐車場から赤れんが博物館にかけての海側回遊動線の確保

○長時間滞在できる場所や休憩施設の充実

- ・滞在するための施設（宿泊施設を含む）の充実
- ・トイレや休憩所の増設（団体客にも対応）
- ・文庫山の立地・眺望環境を活かした施設の整備

○子ども連れ客や団体客に対応した施設の整備

- ・小さな子どもの楽しめる施設の整備
- ・団体客に対応した飲食施設、休憩所、駐車場等の整備

○収益施設の充実（雇用創出、観光消費額増加、産業基盤強化）

- ・飲食、物販機能の充実（団体客にも対応）
- ・防衛省三角地（No. 17倉庫を含む）、文部科学省3棟、土地開発公社所有地、文庫山学園などの取得と活用

○歴史文化等を伝承する機能の整備

- ・「海軍ゆかりの歴史文化」や「自衛隊施設の所在するまち」を発信する施設の整備

○自衛隊施設への動線の整備

- ・三宅団地前交差点～赤れんがパーク専用駐車場間の歩行動線の安全確保
- ・赤れんがパーク～自衛隊施設間の安全で利便性の高い動線の確保

○赤れんが博物館への動線の改善と充実

- ・「赤れんがパーク周辺エリア」の一体感を創出するための赤れんが博物館～赤れんが倉庫（2～5号棟）～赤れんがパーク専用駐車場の動線整備

○良好な景観づくり

- ・赤れんが倉庫群を活かした景観づくりと空間を活かす仕組みづくり
- ・シンボリックな景観づくりのための文庫山法面の整備（間伐、植樹）
- ・夜の「赤れんがパーク」を楽しむための夜景づくり
- ・海から見た良好な街景観（夜景）の整備

<赤れんがパークの周辺エリア・広域>

○「赤れんがパーク周辺エリア」と「しおじ通り周辺エリア」の回遊性確保

- ・赤れんがパークと前島、しおじプラザの回遊性（動線）確保
- ・前島埠頭利用客（フェリー客等）の「赤れんがパーク周辺エリア」への誘導

○まち全体としての「赤れんがのまち」化の推進

- ・まち全体を「赤れんがのまち」にするためのデザインコントロール（看板等の統一化等）

○観光客の増加に対応したまちづくりの検討

- ・中心市街地エリアにおけるゲストハウスなど、宿泊機能の整備
- ・中心市街地との回遊性を高める仕組みづくり
- ・JR東舞鶴駅から三条通り、前島連絡橋の動線整備（駅から赤れんがパークまで散策できるルートの整備）

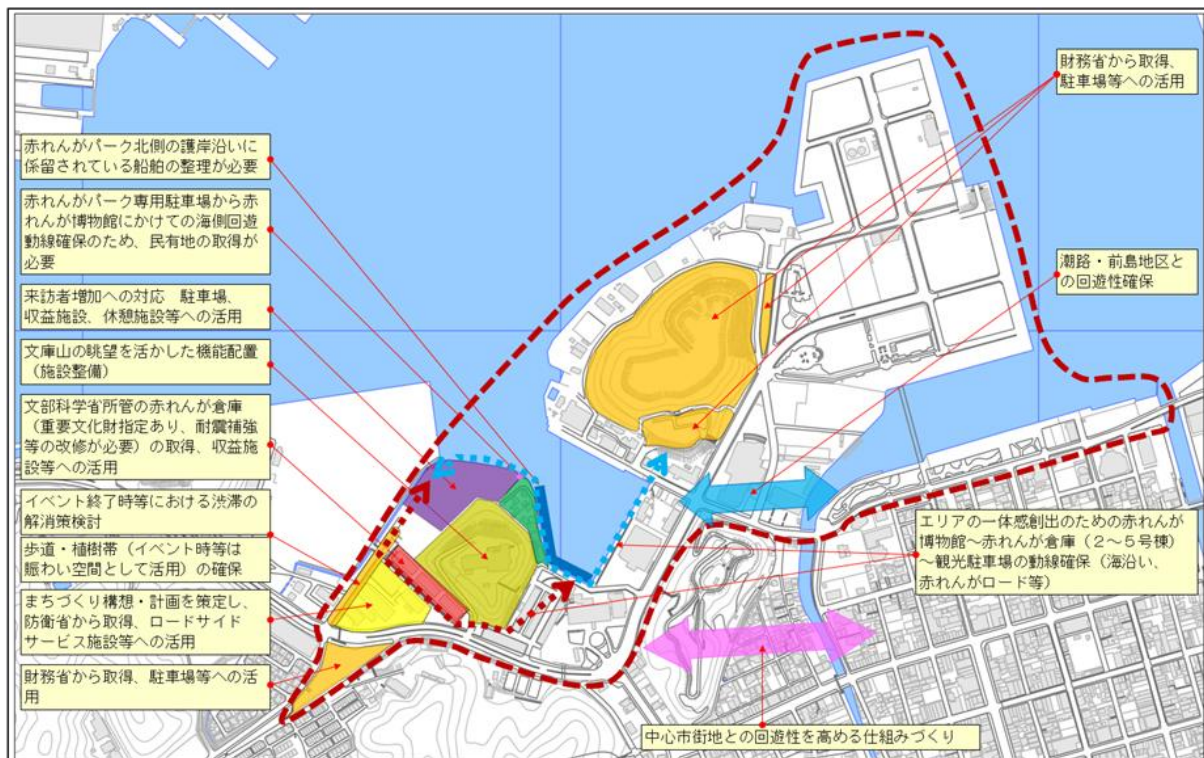
(2) 赤れんがパークと周辺エリアにおける整備開発に係る主な課題

○効率的な事業スキーム

- ・事業の優先度の設定
- ・早期の利活用が可能な用地の確保と事業着手

○民間活力の導入

- ・民間事業者等の出店等意向の把握、進出条件の抽出



Ⅲ. 構想策定にあたって

4. 構想策定の経過

4-1. 構想策定の進め方

基本構想の策定にあたっては、地域資源を活かした都市開発やまちづくり、都市のブランド形成などにおいて、幅広い識見や、豊富な経験、ネットワーク等を有する有識者、商工団体、観光団体、まちづくり団体等で構成する「赤れんが周辺等まちづくり構想策定懇話会」を設置し、提案・意見を求めました。

また、民間活力の導入の観点から、市内事業者に対して、赤れんがパーク周辺等に、今後、必要とされる集客機能（飲食、物販、宿泊施設等）の導入に対する可能性（出店意向）、出店等に必要となる整備・支援策などについてニーズ・ご意向などを伺うアンケート調査を実施しました。

さらに、舞鶴へのツアー企画等を実施している旅行業者に対して、赤れんがパークの評価や要望事項等についてのヒアリング、赤れんがパークのブランドづくりを進めてきたブランディング機構に対して、事業推進の中での課題、ネック等についてのヒアリングを実施しました。

表 4-1 懇話会、アンケート調査、ヒアリング調査の実施状況

内 容	日 時	主な議事/調査事項
第 1 回懇話会	平成27年10月9日(金)	○意見交換 ○ワークショップ等の実施について ○今後のスケジュールについて
第 2 回懇話会	平成27年11月17日(火)	○整備の方向性等について ○アンケート・ヒアリング調査等の実施について
ブランディング機構ヒアリング	平成27年11月20日(金)	○事業推進の中での課題、ネック等
企業ニーズ等把握調査	平成27年12月25日 ～平成28年1月12日	○今後、必要とされる集客機能 ○導入に対する可能性（出店意向） ○出店等に必要となる整備・支援策など
旅行会社ヒアリング調査	平成28年1月	○観光地としての舞鶴市の評価 ○「赤れんがパーク」をツアーに組み込む場合の課題（ツアー造成上ネックとなる点）
第 3 回懇話会	平成28年2月4日(木)	○アンケート調査結果等について ○施設配置提案について ○まちづくりの基本的な考え方について ○懇話会提言書(素案)について
第 4 回懇話会	平成28年3月18日(金)	○提言書(案)とりまとめ
提言書提出	平成28年3月18日(金)	○舞鶴市へ提言書を提出

4-2. 策定懇話会における主な意見

懇話会では、「赤れんがパーク周辺」を重点検討エリアと位置付け、現状や課題を整理し、エリアに必要な機能、今後の整備の方向性などについて議論を行い、整備の方向性や必要な機能を定めるとともに、今後の構想の展開に当たっての基本的な考え方を示し、具体的な施設配置に向けた提案をとりまとめられました。

策定懇話会における主な意見等は以下のとおりです。

(1) 第1回懇話会（平成27年10月9日（金））

項目	意見
導入機能・施設	<p>○施設へのアプローチの明確化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・道路に面した施設への入り口の整備が必要 バス等の駐車場を含む ・エントランスの改善 <p>○「海辺と赤煉瓦との関連性の強化」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現在の駐車場の海辺に面したところなどを開発。カフェ、ビューポイントなど ・体育館側に停泊している船の整理。棧橋等の施設 ・回遊船の待合場所等の整備 <p>○長時間見られる場所や休憩施設</p> <ul style="list-style-type: none"> ・来てもらって滞在するための施設（宿泊施設を含む）の充実 <p>○子どもや団体客対応施設、収益施設等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カフェ等の市にお金を落としてもらおう工夫 ・小さな子供の楽しめる施設 中舞鶴の汽車の公園 ・団体客対応の施設 ・文庫山を自衛艦が見られる場所として活用 <p>○飲食や娯楽施設の充実による完結型の場</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国道の入り口に飲食や娯楽施設を集中し完結型の場とする <p>○観光客対応施設の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・トイレの増設、昼食場、休憩所は必ず必要 ・文庫山に大手の宿泊業者をよぶ
アクセス・動線	<p>○「自衛隊施設への動線の整備」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・できるだけ安全で利便性の高い動線の確保 <p>○赤れんが博物館への動線</p> <ul style="list-style-type: none"> ・動線がバラバラ。赤れんが博物館への動線も悪い。間に市役所や体育館がある。長期的にはそれらは移転。市役所の1階部分を観光客のために開放利用（短期的）
街全体のあり方	<p>○街全体としての赤れんがの街の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・街全体として赤れんがの街になっていない。国道沿いや海沿いも赤れんがに統一していくべき <p>○観光客が役者、主役になり、街を舞台に</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水兵が街を歩く。水兵が赤れんが倉庫を歩く、観光客が役者、主役になり、街が舞台に ・早めに街全体のデザインコントロールをして、看板等の統一化を図る ・西と東をループ化し、貨物船、蒸気機関車など家族づれで楽しめる街とする
街づくりの視点 (考え方、進め方)	<p>○街づくりの視点</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 水域に目をやる。欧米のウォーターフロントは市民アクセスが良く、市民が近づきやすい 舞鶴も水位差が小さいのでその点有利 2. 風景をつくる。写真が撮れる場をつくる。歩きながら…シンボルになる風景… 3. 実験をする。まずは、社会実験をして市民が気づかない魅力を引出し共感させて制約のレベルを下げる 4. 拠点の性能を高める 5. 農業であれば6次産業化、公務であれば（海自など）公務員を見せる 今あるものを活用する

	<p>6. 仕組みを作る。人が立寄りざるを得ない仕組み</p> <p>7. ブランド化を図る</p>
<p>中心市街地(商店街)との連携</p>	<p>○「<u>観光客の増加に対応したまちづくり策の模索</u>」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・商店街エリアの空き地・空き店舗の活用。ゲストハウス、旅館等の誘致 ・現状店舗は住民ターゲットの日常的な下町的商店街の営業を進める。観光客は地元を楽しむ <p>○「<u>回遊性の確保(徒歩、ランニング)</u>」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・赤れんがエリアから歩いて回ることができる歩道等の整備 ・健康を視点としたランニングロードの整備。周辺の公園・ホテルとの連結 <p>○<u>ゲストハウス導入による街の活性化</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ゲストハウス。若者が住み着いて経済が活性化していく。大型ホテルは客を囲い込むだけで街とつながらないが、ゲストハウスは街の活性化につながる

(2) 第2回懇話会（平成27年11月17日（火））

項目	意見
①整備の方向性について	
＜ゾーニング・機能配置＞	
賑わい施設のゾーン配置	・三角地から整備するとなると時間がかかってしまい機運がそがれる懸念もある。ウォーターフロントの整備のほうから手を入れて動線も民間所有地の海沿いにボードウォークを整備するという海辺から整備をする案のほうがよいのでは。
駐車場の考えかた	・立体駐車場に関してはどうなのか。文庫山を掘る、あるいは地下駐車場にするなどの方法もあるのでは。 ・三角地の整備に時間はかかるとしても財務省三角地の駐車場整備を早くしてもらいたい。 ・駐車場の入口を明示する必要がある。
自動車動線の2方向通行確保	・イベント等の帰りには渋滞で時間がかかるため、海辺のゾーンからも帰れるようにしてほしい。
ホテル・宿泊施設配置	・ホテルを山上に作ると、山上はホテル利用者のみとなるので、文庫山の上は大芝生広場。 ・ホテルは水辺にあったほうがよい。 ・ホテルを山の上に置く方法と下に置く方法が考えられる。
＜景観・修景＞	
夜景を活かした景観や夜の賑わい	・眺望については海からの眺望も大切だが、夜の景観イメージも重要である。夜と昼の景観の使い分け、夜の街の魅力の検討ももう少し必要かと思う。 ・いろいろな眺めを活用すべきである。また昼の観光のみでなく、夜に地元の人も散歩したくなるような、観光客のみでなく地元の人のための場所としても整備してもらいたい。
プロムナード化等	・車道沿いのプロムナード化。
植栽計画等	・サクラによる修景。
写真撮影スポット	・近景のみでなく遠景をうまく撮影できるように。 ・写真撮影は赤れんが倉庫の中も大切であるが、外観を使い歴史を体感することも重要。
＜その他＞	
回遊動線（JR客の誘致）や市民のための空間整備等	・東舞鶴駅から三条通り、前島歩道橋を経由して赤れんがパークに来るようにJR客の誘致も考えるべき。 ・観光客だけでなく市民のための空間でもあるべき。 ・駐車場からサイクリングするのも良い。自転車道が整備されているのも良いのでは。
シビックプライド	・赤れんがパークに子どもが舞鶴の歴史を学び、その子が親になって子ども連れてくる。継承していく事が大切。
利用者像、ターゲット層の明確化	・観光客はできれば2時間滞在でなく、3～4時間滞在してもらいたい。対象者像は若い女性であれば賑わいが増す。
既存の資源の保全・活用	・赤れんが倉庫がこれだけ集積しているのは圧倒的であるが、使い方が今一つ明確でない。倉庫内の使い方のコンテンツが今一つである。 ・海軍鎮守府の百年以上前の石積み護岸が残っており、外から見られる数少ない場所でもあるので大切にしてほしい。
整備のステージプラン	・開発ステージについては、2～3ステージが考えられる。第1ステージはこう、防衛省三角地は第2ステージで、体育館は第3ステージ。

項目	意見
②アンケート・ヒアリング調査等の実施について	
■地元事業者ヒアリングについて	
商業のみでなく製造業等の意向把握	・アンケートの質問内容では飲食や物販施設が主なものであるが、物を作っている人やサービスのなものも含めて聞いてはどうか。
若者や女性の起業的出店意向	・若い人やNPOを含めてどんなビジネスをイメージしているのか。アンケートの前に若い人や農林水産業の人など新産業を自ら創業する人にヒアリングするなどをしてはどうか。
■首都圏事業者ヒアリングについて	
実際に来訪した人の意向把握	・実際に旅行に参加した人のニーズを聞く事、既に来た人の満足度やがっかりした点を抑えておくことも重要である。
旅行代理店の座談会	・ヒアリングは各事業者を集めた座談会や来訪者のモニタリング等があればよいが。

(3) 第3回懇話会（平成28年2月4日(木)）

<1. 「策定懇話会 提言」の構成について>

項目	意見
提言の構成	・市民の暮らしや歴史文化、市民のプライドなどがあってまちをつくっていき、その中で具体的な施設配置を載せる方が分かり易い

<2. 構想策定にあたっての考え方＝シビックプライドについて>

項目	意見
プランニングの進め方	・市民生活や引揚記念館、海上自衛隊を同じ目線でとらえ直してみる。市民が共有する価値観としてとらえ、それをベースにしてプランニングを進める
イメージ図について	・「市民の暮らし」に「近代化遺産群」、「引揚記念館」を包含
記載文章の表現について	・プライドとフロントという言葉の置き換え等 ・伝わりやすいことが大事
シビックプライドの意義	・当該エリアはこういうところだと言えるように、市民が共有できて、市内外にPR、プロモーションの展開時、サイン作成時のきっかけやよりどころとなるもの
考え方の内容	・共有できる価値観や取組姿勢がしっかり書く。それを踏まえた目標があり、目標を展開して施設配置になる ・共有できる価値観を示しながら施設内容を出して、当該エリアがどのようになるか、どのような思いをもって事業を進めているのかを市内外の人にしっかりと伝えられるように。内容をブラッシュアップできる次につながるような見出しを提言の中に入れる ・価値観等は変えていける ・本提言書におけるシビックプライドの対象範囲は「赤れんがパーク周辺エリア」

<3. 整備の方向性、必要な導入機能について>

項目	意見
調和した空間づくり	・市民と観光客のニーズをうまく調和させた空間にすることが課題
駐車場	・駐車場をしっかりと確保
市役所	・市役所と1～5号棟あたりは「生活交流ゾーン」として、市役所から入ってくるといってとらえ方 ・「赤れんがパーク」の中に市役所がある、観光交流の中心となる場所、シビックホールのようなとらえ方、市庁舎を通り抜けて2～5号棟にたどり着く ・1階の使い方が重要
赤れんが倉庫	・歴史的建造物とするか、内部空間をもっと活用するかの見極めが必要 ・5号棟は市民と観光客が交わる空間として使用
回遊動線	・回遊動線にストーリーをもたせた整備（始点、終点、結節点に施設整備（親水施設、カフェなど） ・文庫山の周りを回る動線づくり
景観形成	・赤れんが倉庫に囲まれたプラザから赤れんが倉庫を眺める、赤れんが倉庫を借景として使う ・商業空間をつくる際、赤れんが倉庫をどのように見せるのか（シチュエーション、視点の位置、見せ方）を考える ・湾の入口からみた街景観の整備

<3. 整備の方向性、必要な導入機能について> (続き)

項目	意見
海上自衛隊との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・海上自衛隊を活かす内容 ・非日常の世界（舞鶴基地）に入る際に橋を渡らせるような工夫 ・海上自衛隊と交流できるイベントが必要
家族連れ市民の呼び込み	<ul style="list-style-type: none"> ・家族連れの市民が楽しめる部分の盛り込み ・子どもを連れた家族連れがリピーターとなる施設、長時間滞在できる仕組みを考える
親水機能	<ul style="list-style-type: none"> ・水辺の価値を顕在化させるプロジェクト（カヌー、いかだ、川沿いのライトアップ等）
周辺エリアとの連動	<ul style="list-style-type: none"> ・当該エリアと既存ホテルのエリア（しおじパーク）、東舞鶴商店街（中心市街地エリア）とのアプローチに関する記載が必要 ・「しおじプラザ」などの海辺空間との回遊性を地域住民向けとして整備
北近畿地域の連携	<ul style="list-style-type: none"> ・北近畿や福井県嶺南地方の連携、中核都市に
ステージプラン	<ul style="list-style-type: none"> ・できるだけ早く、できることから先行投資

<4. 配置施設（素案）について>

項目	意見
三角地・文科省3棟	<ul style="list-style-type: none"> ・きれいな大型トイレが必要
立体駐車場	<ul style="list-style-type: none"> ・景観への配慮（親水広場からの見え方、文庫山からの見え方（車が見えないように：屋上緑化、イベントスペース）） ・文庫山の一部のような外観、文庫山と一体化した公園とし、交流の場として整備 ・違うやり方 ・要検討 ・海中に建設
親水広場	<ul style="list-style-type: none"> ・もうひと工夫（眺望を活かす、チェアーデッキを置くなど）
文庫山	<ul style="list-style-type: none"> ・機械で登っていただくか、歩いて登っていただくかが課題 ・行き帰りで別ルートをとれるように（桜の丘と立体駐車場屋上を大階段で連絡） ・市役所側にエレベーター等の設置 ・立体駐車場と一体的なエレベーターの整備 ・登ってもらえるような魅力的な眺望づくり ・登ってもらえるような情報の発信 ・イベント広場として利用、音楽堂の整備
文庫山法面	<ul style="list-style-type: none"> ・ツツジ植栽、法面に迷路、山頂へのアプローチを工夫 ・市民参加による植樹
展示PR施設	<ul style="list-style-type: none"> ・当該エリア内に配置、「海軍ゆかりの歴史文化」をしっかりと伝えるためにも位置取りが重要 ・文庫山の麓と立体駐車場の間にチューブ状の施設を整備（導入部と海を結ぶ、展示物を見ているうちに海に到達） ・近代史以前の歴史も展示 ・海上保安庁の情報も展示
ボードウォーク	<ul style="list-style-type: none"> ・砂浜など海に親しめる場所の整備 ・もうひと工夫（眺望を活かす、チェアーデッキを置くなど）

<4. 配置施設（素案）について>（続き）

項目	意見
物販施設	<ul style="list-style-type: none"> ・魅力的な販売物 ・見て回って楽しくなるぐらいの品揃え
宿泊施設	<ul style="list-style-type: none"> ・当面はバックパッカーを対象にするとともに、その方々の呼び込み方を考える ・どのような方に来ていただくかが課題 ・文庫山山頂は避けるべきで、まちなかが活性化するような仕組みが必要 ・東京駅のような赤れんがのホテル
東山エリア	<ul style="list-style-type: none"> ・地下壕の観光利用 ・宿泊施設が良い
東体育館	<ul style="list-style-type: none"> ・交流拠点としてフードコート、物販施設、交流施設など柔軟な利用を考える

<5. 基本構想等の策定に向けて>

項目	意見
基本計画	<ul style="list-style-type: none"> ・整備手法、役割分担、事業スキームの具体内容は次のステージで詰めていく ・次のステップでも良いので、舞鶴市政に対してどのような効果があるのか示せばよい
三角地・文科省3棟エリア	<ul style="list-style-type: none"> ・赤れんが倉庫の歴史的価値の尊重の仕方、賑わいづくりのポジショニング、商業空間の魅力付けの議論が次のステージで必要

(4) 第4回懇話会（平成28年3月18日(金)）

<1. 提言書策定にあたって>

項目	意見
提言書策定にあたって	・広い背景と環境の中で赤れんがパークが浮き彫りにされて、それらが一体として、将来、まちの重要な核としていくことが、今年度、懇話会で議論されていく中ではっきりしてきた。
外の眼（外からの意見）	・提言書を策定するにあたり、外から見た舞鶴に対する意見が大きかった。 ・赤れんが倉庫群も、当初、観光資源になるのかと舞鶴市民は思っていたが、他から（観光資源になるとの）意見をいただいて観光資源となった。

<2. 観光客と住民、赤れんがパークと周辺地域の交わり>

項目	意見
観光客と住民の交わり	・提言書は観光客を対象にした施設になっている。 ・観光客と住民が互いに交じり合っていないと栄えていかない。
地域との連絡、交わり	・地域と赤れんがパークを動線ですないでいくことは当然。 ・地域とつながる、地域と赤れんがパークが交わるのが非常に大切。 ・地域と赤れんがパークがもう少し複雑に交わり合うシステムが必要。
駅や商店街とのつながりと、商店街の活性化	・駅または既成市街地からのアプローチを考える。 ・（赤れんがパークと）まちなかがつながっていることがわかるような仕掛けをつくる。 ・商店街に人を引き込むアトラクションのような仕組みをつくる。 ・赤れんがパークだけが独り立ちしないようにすることがソフトウェアとして必要。
商店街とのつながりと活性化	・東舞鶴のまちなかと赤れんがパークがつながっていくことが大事。 ・三条通りに小間物屋のような店をつくることで賑わいができつながっていく。
自衛隊施設との繋がり	・自衛隊の見学者を如何に赤れんがパークに引き込むかを考えていくことが必要。

<3. 住民にとっての赤れんがパーク>

項目	意見
憩いの場	・舞鶴市民の憩いの場となるような作り方が大事。
市民の立ち寄る仕組みづくり	・赤れんがパークに市民がリピーターとして気軽に立ち寄れるようにすることが大事。 ・市民が赤れんがパークに行けば何かあるという期待をもって寄って来るようにすることが重要。
市民の赤れんがパーク	・このエリアに住民が入って来られるような仕組みが必要。 ・住民がこのエリアは自分たちのまちだと意識できるプライドをもてる状態にしていくことが必要。
危機感と夢の共有	・舞鶴からも外に出ていきやすい環境になったという危機感を市民にもってもらおう。 ・赤れんがパークをなんとかしないと街の運命がかかっているという危機感も市民にもってもらい、関わってもらわないといけない。 ・まちづくり構想を市民に伝え、市民の夢として浸透させていく必要がある。

<4. しおじ通り周辺エリアの整備>

項目	意見
フェリーターミナル	・フェリーターミナルは海からの人の流れとして重要な軸線となる。 ・フェリーターミナルを観光目線でとらえ構想に加える。
エリアの機能	・しおじ通り周辺エリアは、地域の方々の憩いの場であり、観光と交わることでおもしろいエリアになる。

<5. 赤れんがパーク周辺エリアの施設配置計画>

項目	意見
三角地	・三角地の駐車場と赤れんがの建物の間に何もないので、車の背景に赤れんが倉庫があるという風景になるので、緑を配置して車がみえないようにする。
回遊路	・赤れんが倉庫1号棟への連絡を考える。
海からの風景	・海からの風景を考える。
海からのアプローチ	・海からのアプローチを考える。 ・舞鶴市民が、もう一度、舞鶴の海を見直すきっかけが必要。

<6. 今後のまちづくりについて>

項目	意見
今後、考えていくこと	・フェリーターミナル周辺、駅周辺も考えが及んでいくので、将来、是非、考えたい。
できるところから進める	・1つずつできるところから進めていくことが大事。
消費額を増やすことを考える	・自衛隊施設に訪れる多くの方々には貴重な資源であるが、購入する土産物が限られており、如何に舞鶴市にお金を落としてもらえるかを考える。

<7. 構想を具体化していく際に視点>

項目	意見
ブランディング	・ブランディングの視点として、これから市民の参画を得ながら、また、いろいろな実験をしながら、あるべき姿を求めていくことになる。その時にまちづくりとして何を約束するのか。約束に沿うことで一本の筋が通ったものになる。 ・ブランドとは顧客への約束事であり、「まちと市民のアイデンティティを育むまちづくり」になると思う。 ・本質を見つめ直した視点からまちづくりを進める必要がある。
アーバンデザイン	・具体的な施設計画の策定時にはアーバンデザインの視点を取り入れる。 ・1つ目はゲート。三角地が観光のゲート、赤れんが倉庫2号棟（シティホール）と前面駐車場が市民のゲート、赤れんが倉庫1号棟と体育館が海からのゲート。ゲートを意識することで骨格が定まる。 ・2つ目はビスタ。赤れんがロードが1つの軸。赤れんが倉庫2号棟と3号棟の間、あるいは3号棟と4号棟の間が軸となる（仮に赤れんが小路）。赤れんが倉庫5号棟は2つのビスタの軸の交差点となる。
社会実験を含めたプログラムをつくる	・社会実験のようなものを行いながら、市民の参加を得て、ブランド、まちづくりの方向を定めていく。
海軍鎮守府から国防と地域生活の拠点へ	・日本海に面する防衛拠点と生活拠点という認識でいた方が、歴史を未来につなげる視点、海上自衛隊とまちを一体とするまちづくりの視点が出てくる。
2つのプールを意識したまちづくり	・赤れんが倉庫前面の水域を赤れんがプール、しおじ通り周辺エリアの水域をしおじプールと考える。 ・赤れんがプールは外に向けた非日常の場所、しおじプールは内に向けた日常の場所。 ・2つのプールをどのようにつないでいくのかという視点になる。 ・しおじプールを議論するときに既存の商業ゾーンとの関係も一緒に議論できる

4-3. 整備の方向性・必要な機能

策定懇話会では、意見及びアンケート調査・ヒアリング調査の結果等を踏まえ、「赤れんがパーク周辺エリア」の整備の方向性、方向性を踏まえた必要な導入機能について、次のとおりとりまとめられました。

<策定懇話会における主な意見>

- 「赤れんがパーク」へのアプローチの明確化と駐車場機能の充実
- 「海辺と赤れんが」の関連性の強化
- 長時間滞在可能な場所や休憩施設の充実
- 子ども連れ客や団体客に対応した施設の整備
- 収益施設の充実(雇用創出、観光消費額増加、産業基盤強化)
- 歴史文化等を発信・伝承する機能の整備
- 自衛隊施設への動線の整備
- 赤れんが博物館への動線の改善と充実
- 良好な景観づくり

<アンケート調査・ヒアリング調査の結果>

- 「赤れんが倉庫」「海軍ゆかり」「海上自衛隊」のイメージを活用
- 来訪者拡大に向けた2次アクセス(巡回バス、市街地各所駐車場等)の整備
- 飲食施設、物販施設、駐車場、宿泊施設、子どもが遊べる場所の充実
- 物販等は「赤れんが倉庫」にマッチしたもの、見て回る楽しみづくり
- 遊覧船の増便・大型化など観光機能の強化
- 飲食施設の夜間営業やライトアップ等による夜の魅力向上
- 自衛隊と連携した観光地づくり
- 舞鶴の歴史展示の充実

<整備の方向性>

- 「赤れんが」と「海・港」を一体のものとして活かしたエリア機能整備
- 自衛隊施設との機能的繋がりを強化する施設整備
- 導入部の明確化(ゲートウェイ空間としての機能強化)と駐車場機能の充実
- ウォーターフロントの立地特性を活かした親水空間の形成、景観づくり
- 回遊性の向上
- 観光機能や飲食機能、物販機能、休憩機能、歴史展示学習機能等の充実
- 市民・観光客の交流や来訪機会創出の仕掛けづくり
- 防災機能の維持・強化

<必要な導入機能>

- | | | |
|-------------|--------|---------------|
| ○ゲートウェイ空間機能 | ○親水機能 | ○景観機能(緑地・看板等) |
| ○休憩機能(トイレ等) | ○駐車場機能 | ○回遊機能(道路・歩道等) |
| ○飲食機能 | ○物販機能 | ○宿泊機能 |
| ○展示PR機能 | ○防災機能 | |

4-4. 策定懇話会 提言

懇話会では、基本構想の策定にあたり、赤れんがパーク周辺等の整備に当たっての基本的な考え方、今後の展開、施設配置等について、以下の提言をとりまとめられました。

(1) 赤れんがパーク周辺エリアの整備コンセプト

貴重な歴史的建造物である赤れんが倉庫が建ち並び、国防拠点である海上自衛隊施設が隣接する赤れんがパーク周辺エリアは、他都市にはない舞鶴ならではの大きな魅力を有しており、多くの人を引き付けるエリアです。

赤れんがパーク周辺エリアの整備に当たっては、短期的には、増加する来場者への対応といった喫緊の課題に取り組む必要がありますが、早期に実施する事業を含め、エリア全体において、また、長期的な視点において、舞鶴市が、日本の近代化を支え、今日まで日本の安全を守るという崇高な使命を担ってきたまちであり、それらを象徴するエリアが、赤れんがパーク周辺であることを地域全体で共有し、舞鶴市民の誇りの象徴として、後世に引き継ぎ、多様な連携・交流により、新たな歴史・文化を生み出すエリアとして、ハード・ソフトの両面から整備していくことが重要です。

■基本的な考え方

- ◎赤れんがパーク周辺エリアが有する歴史的価値、魅力を、地域全体で共有し、まちの象徴として、国内外に広く発信するため、赤れんが倉庫群を活用した交流拠点、歴史展示機能、商業機能などの整備を検討すること。
- ◎隣接する海上自衛隊施設との空間的繋がり、近代以降の歴史的繋がり、防災面等での機能的繋がり強化する整備を検討すること。
- ◎「赤れんが」と「海・港」が一体となった海辺の活用、親水空間の形成、景観づくり等を強く意識した整備を検討すること。
- ◎子どもから大人までの各世代が、また、幼少期から成長するそれぞれのライフステージにおいて、学習、体験、飲食、買物、散策、イベント参加など、多様な目的で赤れんがパーク周辺に訪れ、交流する機会を創出する整備を検討すること。
- ◎市民提案をはじめ、民間からの提案を積極的に取り入れ、協働によるエリアの充実、民間活力等による商業・サービス機能の導入を推し進めるなど、多様な連携、多様な主体による整備を検討すること。
- ◎現状と課題、土地利用状況、整備コスト等を踏まえ、事業の優先順位を定め、効果的・効率的にエリアの機能強化が図られる整備計画を検討すること。

(2) 今後のまちづくり構想策定の展開に向けて

今後のまちづくり構想の策定、構想に基づく事業等の展開にあたっては、対象エリアである「赤れんがパーク」周辺をはじめ、地域に対する誇りや愛着を市民が共有し、一人ひとりがまちを支え、まちの未来をつくる一員であるという意識をもって、まちづくりに参加し、その実現に向かって取り組むことが重要です。

■「赤れんが周辺等まちづくり基本構想」の展開手順

① 対象エリアの魅力、将来像を共有化する

- ・舞鶴市にとって、「赤れんがパーク」周辺が、市の成り立ちを示すだけでなく、日本の近代化の歴史を示す重要なエリアであること、「赤れんが」「海・港」のブランドイメージを推進する観光戦略拠点であることなどの対象エリアの魅力と、まちづくり基本構想に基づく「赤れんがパーク」周辺の将来の姿（整備の方向性、導入する機能、エリアでの過ごし方、楽しみ方など）を地域全体で共有する。

② 地域全体で、将来像の具体化を考える

- ・今後の基本計画の策定、将来像の具体化にあたっては、市民をはじめ、市内事業者、まちづくり団体などが参画、提案できる仕組みをつくる。
- ・仕組みの中で、対象エリアの魅力への理解をさらに深めるとともに、将来の姿を実現するために「何ができるか」をそれぞれが考える。

③ 将来像を実現するための事業を整理する

- ・将来像を実現するために必要なハード事業・ソフト事業を、規模、費用、スケジュール等を含め、段階的に取り組む計画（ステージプラン）を設定し、整理する。

④ 事業を実施するための手法・役割分担を整理する

- ・ハード整備に向けた整備手法やソフト機能構築に向けた取組手法と、実施に向けて行政や事業者、市民、まちづくり団体などが担う役割分担を整理する。

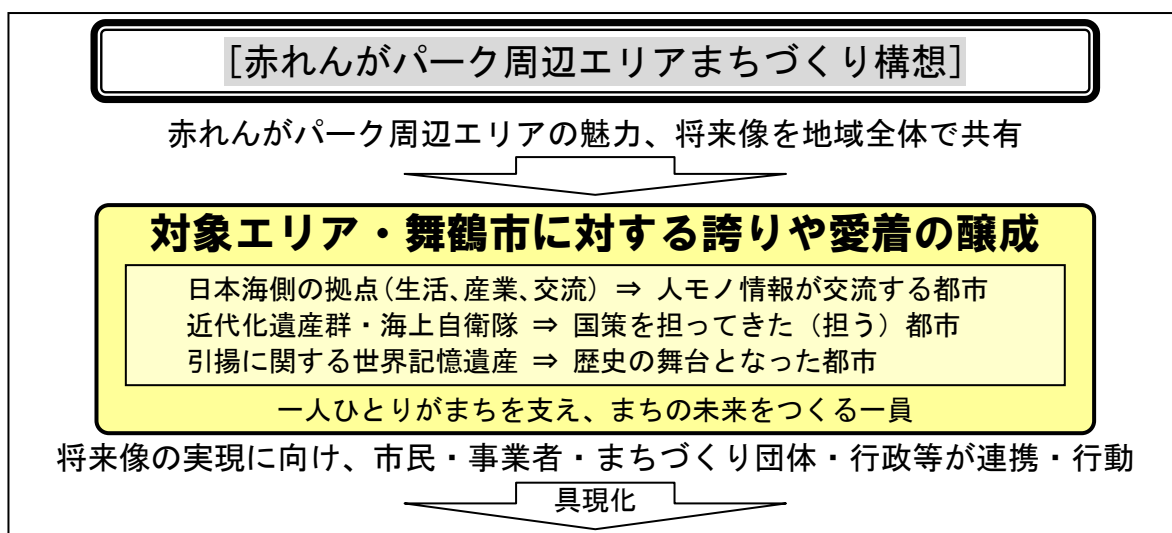


図4-1 まちづくり構想策定の展開イメージ

(3) 施設配置の提案

「整備コンセプト」等を踏まえ、「整備の方向性・必要な機能」で示した内容を具体化した施設配置を提案します。

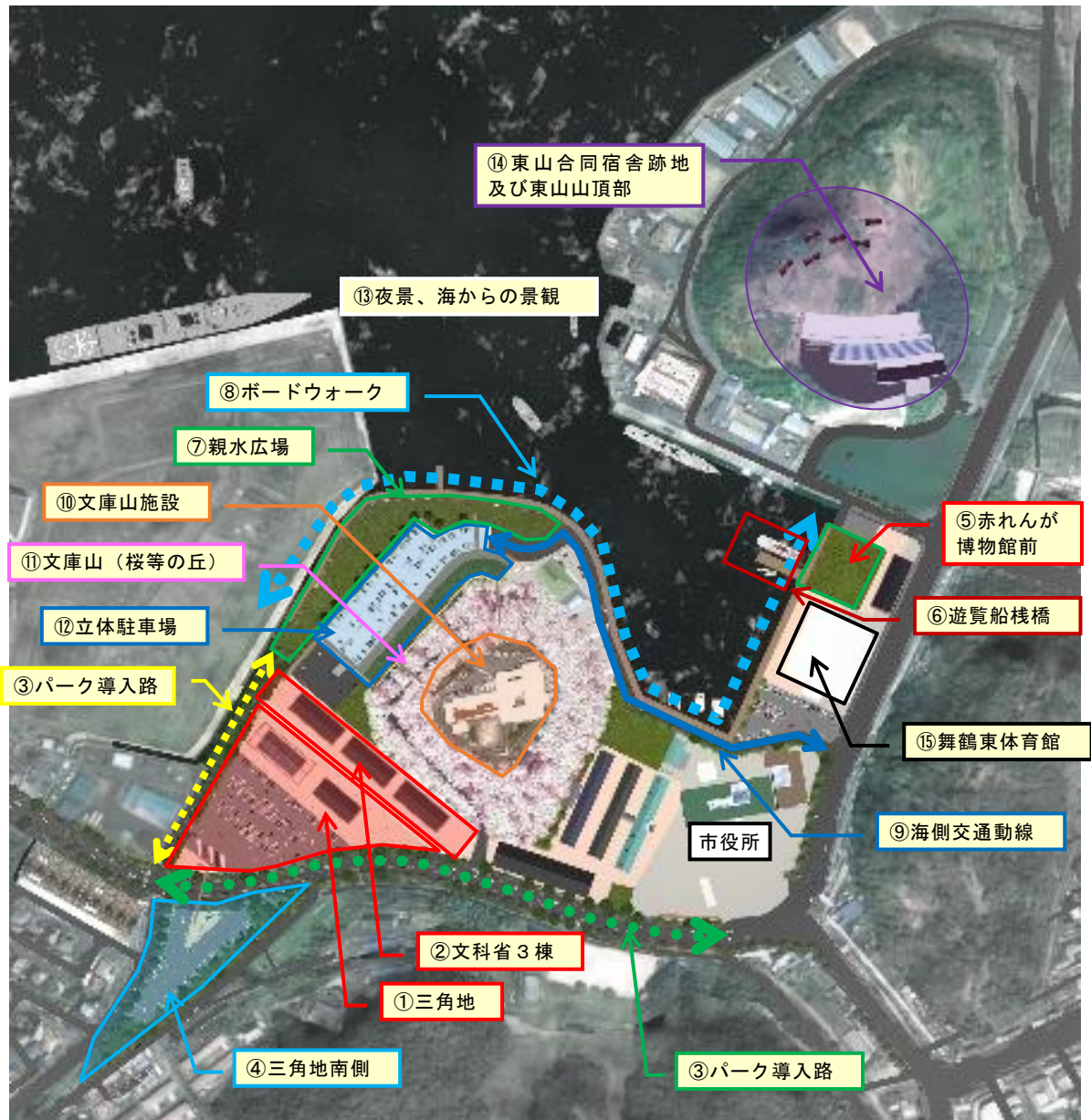


図4-2 「赤れんがパーク周辺エリア」施設配置提案図

■施設配置提案

① 三角地エリア

●赤れんがパークのメインゲートとして、赤れんが倉庫群の特長、景観を活かした交流と賑わいを創出する空間を整備します。

- ・来場者の起点となる複合交流拠点施設（観光案内、休憩施設、物販施設、トイレ（団体客対応）、駐車場等）を整備。
- ・防衛省No17号倉庫は、赤れんが倉庫群を形成する近代建築物の一つとして、保存・活用し、飲食・物販施設等として整備。

② 文部科学省赤れんが3棟エリア

●三角地エリアから赤れんがロードを通り、「日本近代化のあゆみ」「海軍ゆかりの歴史・文化」「国の安全・海の安全」を学べる機能を整備します。

- ・文部科学省赤れんが倉庫3棟は、赤れんが倉庫群の歴史・文化を伝える近代建築物として保全・転活用し、展示PR施設、物販・飲食等施設として整備。
- ・展示PR施設は、海上自衛隊やJMU等との連携・協力のもと、「海軍記念館」「舞鶴館」が所蔵する資料等を含め、近代化のあゆみ、国の安全・海の安全等について学べる施設とする。
- ・物販・飲食等施設では、「道の駅」のような賑わい創出のために地元の農産物や水産物等の販売も行う施設とする。
- ・赤れんがロードは、三角地エリアと赤れんが2～5号棟を結ぶ動線としてだけでなく、撮影スポットの背景となる赤れんが倉庫群の風景づくり、イベント空間として整備。

③ 赤れんがパーク導入路

●赤れんがパークの導入路として、緑により来訪者を迎え入れる空間を演出します。

- ・国道27号沿道に街路樹を植えるなど、緑豊かなプロムナードとして整備。
- ・三宅団地前交差点から赤れんがパーク専用駐車場までの道路は、専用駐車場から赤れんがロードへ、また、自衛隊見学施設（北吸栈橋等）への歩行者動線であり、安全性向上と緑のある景観を形成するため現道を拡幅し、歩道と植樹帯を整備。
- ・植樹帯は、イベント時に移動店舗（屋台等）出店スペースとしても利用可能な空間とする。

④ 三角地エリア南側

●来訪者増加に対応するため、三角地エリア南側の財務省用地を取得し、駐車場として整備します。

- ・メインゲートを印象付けるシンボリックなモニュメントを配置。
- ・現横断歩道橋を撤去し、東側に新たに横断歩道橋を整備。メインゲートへの安全な歩行者動線を確保する。

⑤ 赤れんが博物館前エリア

●「赤れんが」「海・港」の結節点として、開放感のある賑わい、憩い、交流・活動の空間として整備します。

- ・赤れんが博物館来館者や遊覧船乗船客が、舞鶴湾への眺望を楽しみ時間を過ごせるよう、現在の赤れんが博物館前の空間と連続した公園として整備。
- ・遊覧船乗船客が快適に過ごせ、交流等ができる待合所機能を有する施設を整備。

⑥ 遊覧船・遊覧船棧橋

●「海・港」を身近に体験できる観光遊覧機能を充実・強化します。

- ・遊覧機能の強化のため、大型遊覧船や、飲食可能な機能を有する遊覧船を配備。
- ・遊覧船の大型化、複数接岸に対応するため、遊覧船乗り場付近に新たに棧橋を整備。

⑦ 親水広場（緑地公園）

●市民、来訪者が、海辺に親しみ、海辺のロケーションを楽しむことができる開放感のある広場を整備し、賑わい、憩い、交流・活動などを促進します。

- ・赤れんがパーク専用駐車場から土地開発公社、民有地までの海沿いは、北吸棧橋に停泊する自衛隊艦艇や、クレインブリッジなど、舞鶴らしい海の眺望を楽しめる緑地公園として整備。
- ・市民や来訪者が、滞在する（時間を過ごす、休憩する）ことができるよう、遊具施設等の整備をはじめ、ベンチやパラソル等を配置。

⑧ ボードウォーク

●市民、来訪者が、「海・港」をより身近に感じられるよう、また、エリア全体の回遊性を高めるため、海沿いにボードウォークを整備します。

- ・親水広場から、赤れんが広場、赤れんが博物館前エリアまでの海沿いにボードウォークを整備。
- ・ボードウォークに沿って、親水護岸などの親水機能を整備。

⑨ 海側交通動線

●混雑時・緊急時等の車両交通動線を確保するため、海側動線を整備します。

- ・自動車動線の補助ルートとして、専用駐車場等から赤れんが広場北側を結ぶ車両交通動線を整備。

⑩ 文庫山施設

●眺望を活かした来訪者の滞在時間を延ばす施設とするとともに、災害時の避難場所として機能する施設としても整備します。

- ・文庫山施設は、現建物を活用し、団体客にも対応できる飲食機能を整備。
- ・眺望を活かすため、建物屋上を利用できるようにし、テラス席を確保。
- ・施設建物の周囲は、赤れんがパーク、自衛隊艦艇の停泊する北吸棧橋をはじめ、舞鶴を象徴する眺望が楽しめる展望広場として整備。
- ・親水広場側や赤れんが赤れんが倉庫4号棟側から文庫山山頂部を経由して回遊できるよう道路や階段等（エレベーター等も含む）を整備。
- ・災害等発生時の観光客等の緊急避難場所として、備蓄倉庫、物資配送センターなど周辺施設とも連動する機能を整備。

⑪ 文庫山（桜など花木の丘）

●文庫山の立地を活かし、エリアを象徴する景観を花と緑で創出します。

- ・市民をはじめ、多くの人との連携・交流の中で、整備に関するワークショップや、植栽、管理等を協働で行うなど、エリアを象徴する文庫山の景観づくりを通じて、地域への愛着や誇りを育む。

⑫ 立体駐車場

●来場者増加に対応するとともに、親水広場の空間を確保するための立体駐車場などの駐車場を整備します。

- ・赤れんがパーク専用駐車場と土地開発公社所有地の文庫山麓に立体駐車場等を整備。
- ・文庫山の景観に配慮し、文庫山と一体となるよう、海側から2階、2.5階、3階の階段構造とし、壁面は、親水広場、周辺景観との調和に配慮。
- ・文庫山に接する棟の屋上は緑地化し、イベントスペース等として活用。

⑬ 景観形成（まちなみ、夜景）

●市民、来訪者が何度も訪れたいくなる「赤れんが」「海・港」、まちの歴史と文化、心地よさを感じる景観を創出します。

- ・「舞鶴赤れんがパーク」C I戦略に基づくデザイン（建物の外観意匠、案内表示等）の統一。
- ・夜景の魅力を向上させるためのライトアップ設備を強化。夜間でも安心して来場できるように、夜景を意識した街路灯を整備。
- ・遊覧船機能の充実・強化に合わせ、海から見る、赤れんがパークをはじめ、護岸、文庫山等の景観づくり。

⑭ 東山合同宿舎跡地及び東山山頂部エリア

●エリアの整備状況等に応じた利用を図ります。

- ・東山合同宿舎跡地と東山山頂部は、当面は不足する駐車場機能を補完するエリアとして利用し、将来、宿泊施設用地として、東山合同宿舎跡地はホテル、東山山頂部はコテージとしての利用を検討。

⑮ 舞鶴東体育館

●体育館の大空間を活用し、来訪者の活動・交流機会を創出する施設とします。

- ・災害時の物資配送センターとして機能する空間を維持しつつ、将来、大規模集客イベント等が実施できるビジターセンターとして、柔軟な利活用を検討。



図4-3 重点検討エリアの施設配置イメージ（三角地エリア、文部科学省赤れんが3棟エリア等の鳥瞰図）



図4-4 重点検討エリアの施設配置イメージ（親水広場（緑地公園）、立体駐車場等の鳥瞰図）



図4-5 重点検討エリアの施設配置イメージ（ボードウォーク、親水広場）



図4-6 重点検討エリアの施設配置イメージ（三角地エリア南側から三角地へのアプローチ）

IV. 基本構想

5. 基本構想

計画対象エリアの現状・課題、上位計画等における位置付け、アンケート・ヒアリング調査結果、策定懇話会からの提言などを踏まえて、基本構想における基本的な考え方、整備の方向性、導入機能・施設、及び重点検討エリア（赤れんがパーク周辺エリア）の施設配置の方向性を定めます。

5-1. まちづくり構想の基本的な考え方

（1）基本的な考え方

計画対象エリアの整備に当たっては、本市が、日本の近代化を支え、今日まで日本の安全を守るという崇高な使命を担ってきたまちであり、それらを象徴するエリアが、赤れんがパーク周辺であることを地域全体で共有するとともに、市民の誇りの象徴として、後世に引き継ぎ、多様な連携・交流により、新たな歴史・文化を生み出すエリアとして、以下の基本的な考え方にに基づき、ハード・ソフトの両面から整備を検討します。

◎赤れんがパーク周辺エリアが有する歴史的価値、魅力を、地域全体で共有し、まちの象徴として、国内外に広く発信するため、赤れんが1号～5号棟の充実・強化をはじめ、文部科学省赤れんが3棟、北吸三角地に所在する防衛省赤れんが倉庫を活用した交流拠点、歴史展示機能、商業機能などの整備を検討します。

◎赤れんがパークに隣接する海上自衛隊施設や、造船所との空間的繋がり、近代以降の歴史的繋がりを活かした整備、また、海上自衛隊との防災面等での機能的繋がり強化する整備を検討します。

◎「赤れんが」と「海・港」が一体となった海辺の活用、親水空間の形成、景観づくり等を強く意識した整備を検討します。

◎子どもから大人までの各世代が、また、幼少期から成長するそれぞれの段階（ライフステージ）において、学び、遊び、体験、飲食、買物、散策、イベント参加など、多様な目的で赤れんがパーク周辺を訪れ、交流する機会を創出する整備を検討します。

◎市民提案をはじめ、各種団体、民間からの提案を積極的に取り入れ、市民参画、協働によるエリアの充実、民間活力等を活かした商業・サービス機能の導入を推し進めるなど、多様な連携、多様な主体による整備を検討します。

◎現状と課題、土地の利用状況、整備コスト、費用対効果等を踏まえ、事業の優先順位を定め、効果的・効率的にエリアの機能強化が図られる整備計画を検討します。

(2) まちづくり構想の展開に向けて（取組方針）

今後、まちづくり構想に基づく事業等を展開するにあたっては、重点検討エリアである「赤れんがパーク周辺エリア」をはじめ、地域に対する誇りや愛着を地域全体で共有し、一人ひとりがまちを支え、まちの未来をつくる一員であるという意識をもってまちづくりに参加する環境を醸成し、その実現に向かって取組を進めます。

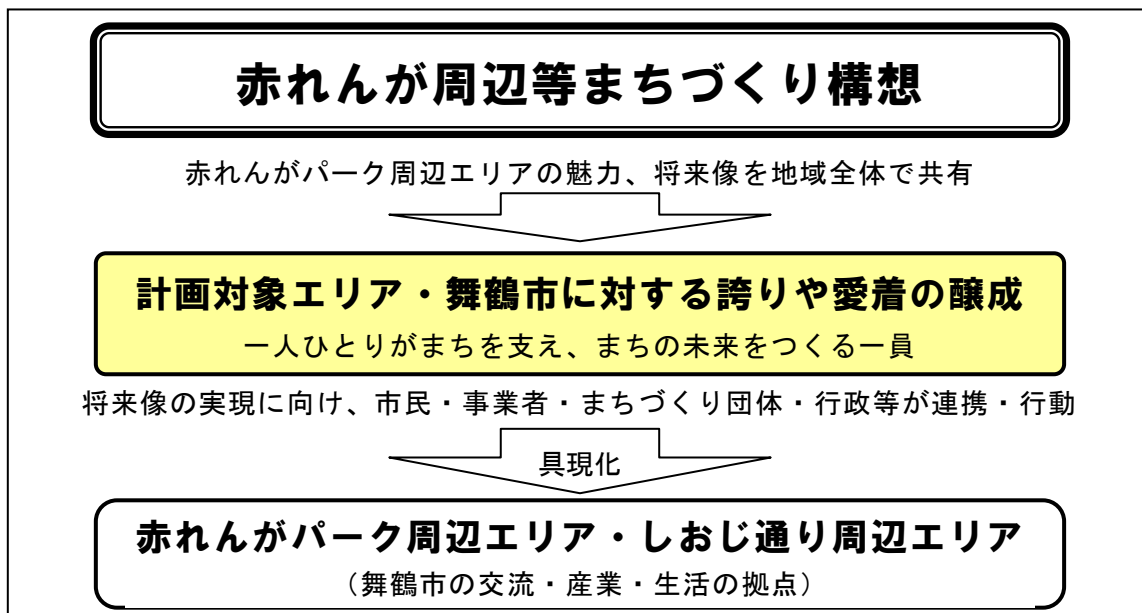


図5-1 まちづくり構想策定の取組方針

(3) 「赤れんが周辺等まちづくり構想」の展開手順

① 計画対象エリアの魅力、将来像を共有する

- ・本市にとって、「赤れんがパーク」周辺が、市の成り立ちを示すだけでなく、日本の近代化の歴史を示す重要なエリアであること、「赤れんが」「海・港」のブランドイメージを推進する観光戦略拠点であることなど、対象エリアの魅力と、まちづくり基本構想に基づく「赤れんがパーク」周辺の将来像（整備の方向性、導入する機能、エリアでの過ごし方、楽しみ方など）を地域全体で共有します。

② 地域全体で、将来像の具体化を考える

- ・今後の基本計画の策定、将来像の具体化にあたっては、市民をはじめ、市内事業者、まちづくり団体などが参画、提案できる仕組みをつくります。
- ・仕組みの中で、対象エリアの魅力への理解をさらに深めるとともに、将来像を実現するために「何ができるか」をそれぞれが考えます。

③ 将来像を実現するための事業を整理する

- ・将来像を実現するために必要なハード事業・ソフト事業を、規模、費用、スケジュール等を含め、段階的に取り組む計画（ステージプラン）を設定し、整理します。

④ 事業を実施するための手法・役割分担を整理する

- ・ハード整備に向けた整備手法やソフト機能構築に向けた取組手法と、実施にあたって行政や事業者、市民、まちづくり団体などが担う役割分担を整理します。

5-2. 整備の方向性

(1) 整備の方向性・必要な機能

計画対象エリアの整備に係る基本的な考え方等に基づき、整備の方向性を以下のとおり設定し、エリアに求められる機能を整理します。

<整備の方向性>

- 「赤れんが」と「海・港」を一体的に活用するエリア機能の整備
- 自衛隊施設との（空間、歴史、防災等）機能的繋がりを強化する施設整備
- 導入部の明確化（ゲートウェイ空間としての機能強化）と駐車場機能の充実
- ウォーターフロント立地特性を活かした親水空間の形成、景観づくり（魅力の向上）
- 回遊性の向上（エリアへの多様なアプローチや、エリア周辺を結ぶ動線の創出）
- 観光機能や飲食機能、物販機能、休憩機能の充実（来訪機会の創出、滞在時間延長、消費額増加）、歴史文化等を伝える機能と機会の創出（価値の向上）
- 埠頭機能の充実（国内、国外の海からの導入部）
- 市民・観光客の交流や来訪機会創出の仕掛けづくり
- 防災機能の充実・強化



<エリアに求められる機能>

- | | | |
|-------------|--------|---------------|
| ○ゲートウェイ空間機能 | ○親水機能 | ○景観機能（緑地・看板等） |
| ○休憩機能（トイレ等） | ○駐車場機能 | ○回遊機能（道路・歩道等） |
| ○飲食機能 | ○物販機能 | ○宿泊機能 |
| ○展示PR機能 | ○防災機能 | |

(2) エリア別整備の方向性

整備の方向性、エリアに求められる機能エリア別の整備の方向性（導入・整備すべき機能）を以下のとおり整理します。

表5-1(1) エリア別整備の方向性（導入・整備すべき機能）

	主な既存施設	方向性	整備の方向性
赤れんがパーク周辺エリア（重点検討エリア）	<ul style="list-style-type: none"> ・赤れんがパーク ・防衛省三角地 ・文科省3棟 ・三角地南側 ・文庫山（文庫山学園） ・専用駐車場 ・市政記念館前駐車場 ・土地開発公社所有地 ・民間施設（民有地） ・遊覧船 ・舞鶴東体育館 ・（海） 	<ul style="list-style-type: none"> ○「赤れんが倉庫」「海・港」を活かした観光交流拠点機能の拡充、日本海側観光の中核拠点の形成 ○公共施設や「赤れんが倉庫」を活かした市民交流拠点機能の充実 	<p>ゲートウェイ空間機能</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「赤れんがパーク」のメインゲートを明確にし、かつ、エリア全体の起点となる拠点機能を整備。 <p>親水機能</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「赤れんが」「海・港」を感じる赤れんがパークと親水空間との一体的な空間等を整備。 ・海辺へのアプローチ、海からのアプローチなど、「海・港」を意識した動線を整備。 ・船乗り場や待合空間の充実を服また親水体験機能（遊覧機能）の充実 ・中長期的に既存の民間施設の移転、マリーナ機能等の導入を検討 <p>景観形成（緑地・看板等）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・赤れんが倉庫群をはじめ、エリアが有する歴史、周辺環境と調和のとれた景観の統一。 ・「文庫山」からの眺望を活かすとともに、「文庫山」をシンボル化する景観づくり。 ・ライトアップ、街路灯の整備などによる夜を意識した景観づくり。 ・海辺、遊覧船からなど、海からを意識した景観づくり。 <p>休憩機能（トイレ等）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市民、来訪者の滞留時間を延ばし、交流を促進する緑地、交流空間を整備。 ・交流機能を高めるため、赤れんが倉庫周辺や水辺、眺望ポイント等に憩い空間として休憩施設を配置。 ・人の流れや動き、増加する来場者、団体客等に対応したトイレを整備。 <p>駐車場機能</p> <ul style="list-style-type: none"> ・来場者の増加に対応する駐車場機能の整備、及び交通混雑緩和に向けた配置検討。 <p>回遊機能（道路・歩道等）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「赤れんが」「海・港」エリアを繋ぐ回遊路、各エリアを結ぶ多様な回遊路を整備。 ・車両動線と歩行者動線を明確にし、安全性を確保。 <p>飲食機能</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市民、観光客、団体客、多様なニーズに対応した飲食機能を導入。 <p>物販機能</p> <ul style="list-style-type: none"> ・赤れんが倉庫施設等を活用し、エリア内の消費拡大を図る物販機能を整備。

表5-1(2) エリア別整備の方向性（導入・整備すべき機能）（続き）

ゾーン	主な既存施設	方向性	整備の方向性
赤れんがパーク周辺エリア（重点検討エリア）			<p>宿泊機能</p> <ul style="list-style-type: none"> 滞在時間、地域消費の拡大を図るため、周辺市街地を含めて宿泊機能を確保。 <p>展示PR機能</p> <ul style="list-style-type: none"> 近代化のあゆみ、旧海軍・海軍工廠の歴史や、国防・海の安全に係る海上自衛隊等の活動などを発信する機能・施設を整備。 <p>防災機能</p> <ul style="list-style-type: none"> 舞鶴東体育館と赤れんが5号棟は、物資配送センターとしての機能が維持できる範囲で、活性化につながる利用を検討。
しおじ通り周辺エリア	<ul style="list-style-type: none"> ・しおじプラザ ・前島みなと公園 ・総合文化会館 ・子育て支援施設 ・フェリーターミナル ・埠頭用地 ・駐車場 	<ul style="list-style-type: none"> ○多世代が、水辺で文化、スポーツなどを楽しめる憩いの空間形成 ○フェリー利用客等のゲートウェイ、交流空間形成 ○誰もが気軽に親しめる海辺の憩いの空間、連続性のある親水プロムナードとして、親水性を活用した賑わい空間形成 	<ul style="list-style-type: none"> ・「赤れんがパーク周辺エリア」との回遊機能の整備 ・イベント等の開催頻度の向上、屋台村やフリーマーケット等の商業活用の促進 ・既存施設の活用促進 ・クルーズ船や外航フェリーなどを受け入れるゲート機能の強化
計画対象エリア周辺（連携の必要性が高いゾーンであるため）	<ul style="list-style-type: none"> ・中心市街地 	<ul style="list-style-type: none"> ○赤れんがパーク周辺エリア、しおじ通り周辺エリアと連携した中心市街地としての賑わい再生 	<ul style="list-style-type: none"> ・空店舗活用での起業・創業による商業機能の活性化、空き家活用によるゲストハウス整備等

5-3. 「赤れんがパーク周辺エリア」の施設配置の方向性

「整備の方向性」等を踏まえ、「赤れんがパーク周辺エリア（重点検討エリア）」における施設配置（整備内容）の方向性を以下のとおり整理します。

（1）施設配置の提案

前述の「整備コンセプト」と「取組方針」等を踏まえ、「整備の方向性」で示した内容を具体化した施設配置を提案します。

① 三角地エリア

●防衛省用地を取得し、赤れんがパークのメインゲートとして、赤れんが倉庫群の特長、景観を活かした交流と賑わいを創出する空間を整備します。

- ・来場者の起点となる赤れんが倉庫群と調和のとれた複合交流拠点施設（観光案内、休憩施設、物販施設、トイレ（団体客対応）、駐車場等）を整備。
- ・防衛省No17号倉庫は、赤れんが倉庫群を形成する近代建築物の一つとして保存するとともに、飲食・物販施設等として整備。
- ・駐車場は環境と景観への配慮として駐車スペースを芝生貼りとする。

② 文部科学省赤れんが3棟エリア

●三角地エリアから赤れんがロードを通り、「日本近代化のあゆみ」「海軍ゆかりの歴史・文化」「国の安全・海の安全」を学べる機能を整備します。

- ・文部科学省赤れんが倉庫3棟は、文部科学省と調整を図り、赤れんが倉庫群の歴史・文化を伝える近代建築物として保全するとともに、展示PR施設、物販・飲食等施設に転活用・整備。
- ・展示PR施設は、海上自衛隊や、ジャパンマリンユナイテッド株式会社等との連携・協力のもと、「海軍記念館」「舞鶴館」等が所蔵する資料を含め、近代化のあゆみ、国の安全・海の安全等について学べる施設とする。
- ・物販・飲食等施設は、地元の農水産物等販売など、賑わい創出を図る施設とする。
- ・赤れんがロードは、三角地エリアと赤れんが2～5号棟を結ぶ動線としてだけでなく、ロケ地、撮影スポットの背景等となる赤れんが倉庫群の風景づくり、イベント空間として整備。

③ 赤れんがパーク導入路

●赤れんがパークの導入路として、来訪者を迎え入れる景観・空間を演出します。

- ・国土交通省と調整を図り、国道27号沿道を景観と調和した魅力豊かなプロムナードとしての整備を働きかける。
- ・赤れんがパークへの円滑な車両入出、安全な歩行動線を確保するため、国土交通省と調整を図り、三宅団地前交差点の改良等を働きかける。
- ・三宅団地前交差点から赤れんがパーク専用駐車場までの道路は、安全性の向上と魅力ある景観を形成するため現道を拡幅し、歩道と植樹帯等を整備。
- ・植樹帯等については、イベント時に移動店舗（屋台等）が出店スペースとしても利用可能な空間とする。

④ 三角地エリア南側

●来訪者増加に対応するため、三角地エリア南側の財務省用地を取得し、駐車場として整備します。

- ・国土交通省と調整を図り、現横断歩道橋を撤去し、三角地南側からメインゲートへの安全な歩行者動線を確認する横断歩道橋を整備。
- ・メインゲートを印象付ける「舞鶴赤れんがパーク」C I戦略に基づくシンボリックなモニュメント等を配置。
- ・駐車場は環境と景観への配慮として駐車スペースを芝生貼りとする。

⑤ 赤れんが博物館前エリア

●「赤れんが」「海・港」の結節点として、開放感のある賑わい、憩い、交流・活動の空間として整備します。

- ・赤れんが博物館来館者や遊覧船乗船客が、舞鶴湾への眺望を楽しみ時間を過ごせるよう、現在の赤れんが博物館前の空間と連続した公園として整備。(既存の赤れんが博物館前の広場をできるだけ活用し、海側に芝生広場を設ける。)
- ・遊覧船乗船客が快適に過ごせ、交流等ができる待合所機能を有する施設を整備。

⑥ 遊覧船・遊覧船棧橋

●「海・港」を身近に体験できる観光遊覧機能を充実・強化します。

- ・遊覧機能の強化のため、大型遊覧船や、飲食可能な機能を有する遊覧船を配備。
- ・遊覧船の大型化、複数接岸に対応するため、遊覧船乗り場付近に新たに棧橋を整備。

⑦ 親水広場（緑地公園）

●市民、来訪者が、海辺に親しみ、海辺のロケーションを楽しむことができる開放感のある広場を整備し、賑わい、憩い、交流・活動などを促進します。

- ・赤れんがパーク専用駐車場から土地開発公社、民有地までの海沿いは、北吸棧橋に停泊する自衛隊艦艇や、クレーンブリッジなど、舞鶴らしい海の眺望を楽しめる緑地公園として整備。
- ・市民や来訪者が、滞在する（時間を過ごす、休憩する）ことができるよう、遊具施設等の整備をはじめ、休憩所（ベンチやパラソル等）を配置。

⑧ ボードウォーク

●市民、来訪者が、「海・港」をより身近に感じられるよう、また、エリア全体の回遊性を高めるため、海沿いにボードウォークを整備します。

- ・親水広場から、赤れんが広場、赤れんが博物館前エリアまでの海沿いにボードウォークを整備。
- ・ボードウォークに沿って、親水護岸などの親水機能を整備。

⑨ 海側交通動線

●混雑時・緊急時等の車両交通動線

を確保するため、海側動線を整備します。

- ・自動車動線の補助ルートとして、専用駐車場等から赤れんが広場北側を結ぶ車両交通動線を整備。

⑩ 文庫山施設

●眺望を活かした来訪者の滞在時間を延ばす施設とするとともに、災害時の避難場所として機能する施設としても整備します。

- ・文庫山施設は、現建物の活用検討を含め、団体客にも対応できる飲食機能を整備。
- ・施設建物の周囲は、赤れんがパーク、自衛隊艦艇の停泊する北吸栈橋をはじめ、舞鶴を象徴する眺望が楽しめる展望広場等として整備。
- ・親水広場側や赤れんが倉庫4号棟側から文庫山山頂部を經由して回遊できるルートや階段等を整備。
- ・災害等発生時の観光客等の緊急避難場所として、物資配送センター（東体育館、赤れんが5号棟）など周辺施設と連動する機能を整備。

⑪ 文庫山（桜など花木の丘）

●文庫山の立地を活かし、エリアを象徴する景観を花と緑で創出します。

- ・市民をはじめ、多くの人との連携・交流の中で、整備に関するワークショップや、植栽、管理等を協働で行うなど、エリアを象徴する文庫山の景観づくりを通じて、地域への愛着や誇りを育む。

⑫ 景観形成（まちなみ、夜景）

●市民、来訪者が何度も訪れたい「赤れんが」「海・港」、まちの歴史と文化、心地よさを感じる景観を創出します。

- ・「舞鶴赤れんがパーク」C I戦略に基づくデザイン（建物の外観意匠、案内表示等）の統一。
- ・電線の地中化などにより、赤れんがパークが有する景観の魅力向上を図ります。
- ・夜景の魅力を向上させるためのライトアップ設備を強化。夜間でも安心して来場できるよう、夜景を意識した街路灯を整備。
- ・遊覧船機能の充実・強化に合わせ、海から見る、赤れんがパークをはじめ、護岸、文庫山等の景観づくり。

⑬ 駐車場

●来場者の増加に対応するとともに、親水広場等の空間を確保するための駐車場を整備します。

- ・導入路や海側交通動線等が整備されるまでの対策として、夕潮台公園西側をはじめ、赤れんがパーク周辺エリアに駐車スペースを整備。
- ・周辺環境整備の進捗に合わせ、赤れんがパーク専用駐車場と土地開発公社所有地の文庫山麓に駐車場(立体駐車場等)を整備。(既存の赤れんがパーク専用駐車場を活用。)
- ・駐車場の整備に当たっては、文庫山、親水広場、周辺景観との調和に配慮。特に、親水広場南側となる駐車場の駐車スペースは芝生貼りとする。

⑭ 市役所正面側交通動線

●大型バス等による団体客の来場増加に対応する交通動線を整備します。

- ・市役所正面側から、大型バス等が円滑に乗入れ、乗降できる入出路及びロータリー等を整備。

⑮ 東山合同宿舎跡地及び東山山頂部エリア

●エリアの整備状況等に応じた利用を図ります。

- ・東山合同宿舎跡地と東山山頂部は、当面は不足する駐車場機能を補完するエリアとして利用し、将来、宿泊施設用地としての利用を検討。

⑯ 舞鶴東体育館

●体育館の大空間を活用し、来訪者の活動・交流機会を創出する施設とします。

- ・災害時の物資配送センターとして機能する空間を維持しつつ、将来、大規模集客イベント等が実施できるビジターセンターとして、柔軟な利活用を検討。

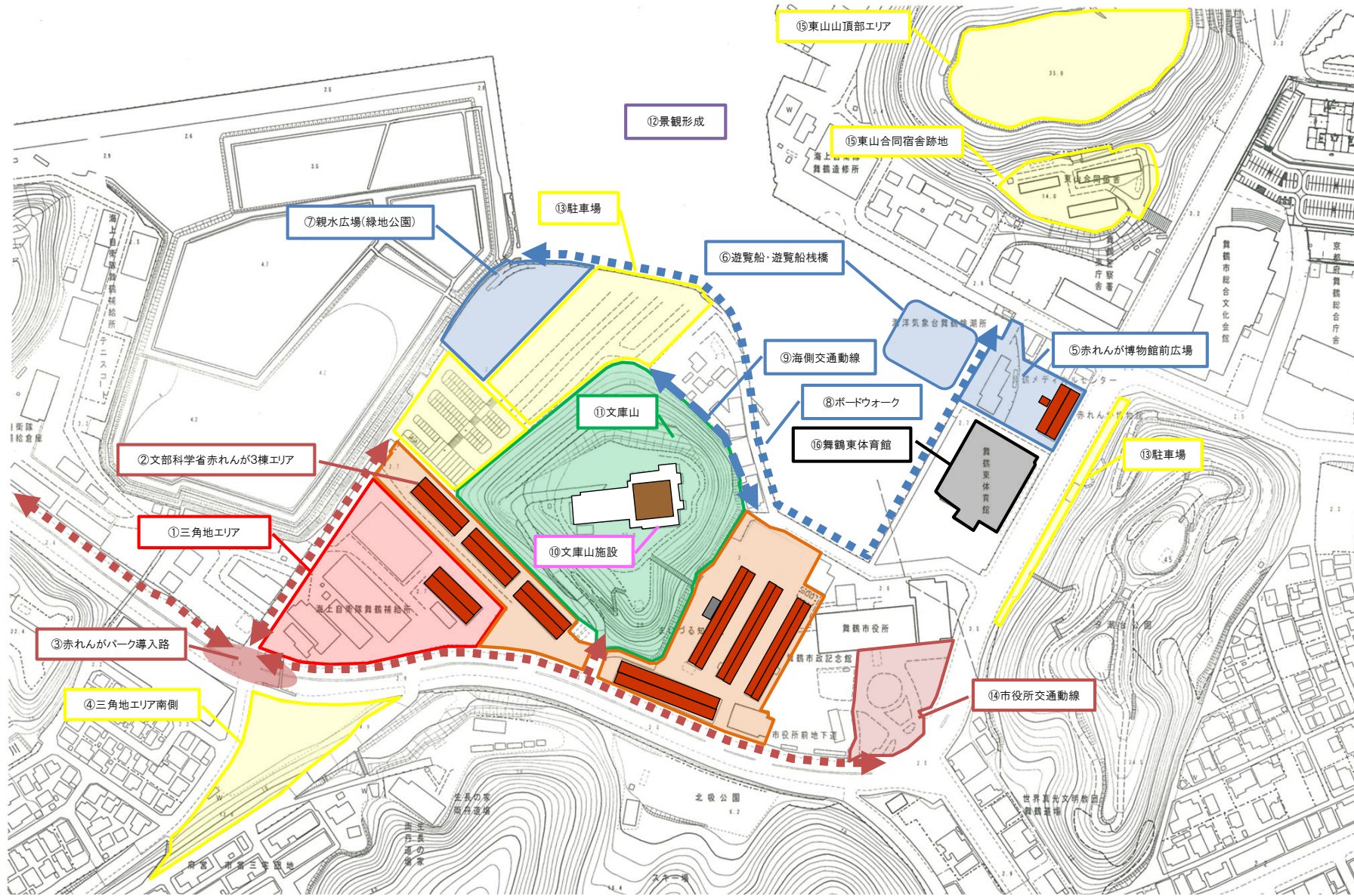


図5-2 「赤れんがパーク周辺エリア」施設配置図

6 今後の事業の進め方等

今後、基本構想に基づく事業の推進、展開に当たっては、防衛省「まちづくり構想策定支援事業」、「まちづくり支援事業」などを活用し、現状と課題、土地の利用状況、整備コスト、費用対効果等を踏まえ、事業の優先順位を定め、効果的・効率的にエリアの機能強化を図っていくこととします。

